



2015 年度

(平成 27 年度)

年 報

公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリス記念病院
訪問看護ステーション ヴォーリス
ホームヘルプステーション ヴォーリス
ヴォーリス居宅介護支援事業所

理事長挨拶

公益財団法人近江兄弟社 理事長
ヴォーリス記念病院 管理者
三ッ浪 健一

2015 年度年報の発行に当たり、挨拶申し上げます。

2015 年度には、2000 年の介護保険制度創設以来 5 回目の介護報酬改定が実施され、2003 年度、2006 年度の連続マイナス改定から数えて 9 年ぶりのマイナス改定となりました。これには 2015 年 10 月に予定されていた消費税率 10%への引き上げが先送りされたことによる社会保障財源の不足が大きく影響しました。改訂の内容は、基本報酬などを適正化の名目でマイナス 4.48%と大幅に引き下げた一方で、介護職員処遇改善加算にプラス 1.65%、さらに中重度者や認知症高齢者への対応などを評価する加算（定期巡回・随時対応型訪問介護看護や看護小規模多機能型居宅介護などの包括報酬サービスの機能強化を含む）の充実にプラス 0.56%を充当するなど、メリハリのきいた内容となりました。

また、介護報酬改定と併せて行われた 2015 年度介護保険制度改正では、介護予防サービスが大幅に見直され、介護予防訪問介護と介護予防通所介護は、区市町村が地域支援事業として 2017 年 4 月までに開始することを義務づけられている、新しい「介護予防・日常生活支援総合事業」（新しい総合事業）に順次移行することになりました。さらに、今回の改正で大きな変更となったのが、一定以上の所得がある利用者の自己負担割合が、従来の 1 割から 2 割に引き上げられた点で、2015 年 8 月から施行されました。

2015 年 5 月には、医療保険制度改革関連法（持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律）が成立しました。これに基づき、財政状況が厳しい国民健康保険に対する財政支援を拡充するとともに、18 年度からその運営の責任主体を都道府県に移管することで、国民健康保険の安定化を図ろうとしています。医療費適正化に関しては、都道府県の策定する医療費適正化計画の見直し、予防・健康づくりに取り組む個人や保険者に対する支援の強化などが盛り込まれ、その他、協会けんぽの国庫補助率の安定化、所得水準の高い国民健康保険組合に対する国庫補助の縮小、後期高齢者支援金の全面総報酬割の導入、患者申出療養の創設などの改正が行われました。

このような情勢の中で、2015 年度に当院がどのような活動を行い、今後どのような病院にしていこうとしたのかについてまとめておくことは、今後の当院の発展のために大変有意義なことです。本年報をしっかりと分析していただいて、今後の発展へ向けた多くの提言がなされることを大いに期待しております。

院長挨拶

公益財団法人 近江兄弟社
ヴォーリズ記念病院 院長 周防 正史

皆様におかれましては、益々ご発展のこととお慶び申し上げます。平素は当病院に格別のご支援、ご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

訪問看護ステーション開設 23 年、緩和ケア病棟開設 10 周年、回復期リハビリ病棟開設 7 年を迎え、在宅療養支援病院を取得し 2 年経過しました。地域包括ケア病床はその前身である亜急性期病床の時代から 10 年経過しました。昨年から認知症患者さんの入院に対応すべく院内ディサービスを開始しております。目的はすべて、地域の患者さんのための在宅支援です。急性期病院ではできない、きめ細やかな退院調整であり、また、患者さんを長期にわたって療養させる、慢性期の病院とは違った役割を担っていくことを主軸にしてまいりました。在宅で不安なく過ごしているように援助していくこと、病状が再燃した時、介護のサポートが必要な場合にも、気軽に利用していただける病院、在宅部門というシステムを作りあげることが悲願です。

退院調整や在宅支援について点数が付いたとはいえ、2016 年に改訂された診療報酬も厳しい内容で、中小の病院にとってはバランスよく運営していくことは、難しい時代です。当院は創立者 W.M.ヴォーリズの残した「キリスト教の隣人愛と奉仕の精神」を基本理念とした創立の精神を継承し、地域になくてはならない医療機関を目指しております。病院・在宅のそれぞれの仕組みに対し、一定の評価をいただいていることは、すべての職員にとって励みであり、さらに多くの方に喜んでいただける質の高い医療・看護・介護のサービスを今後とも模索していく覚悟で頑張っております。

2015 年度の活動をまとめましたので報告させていただきます。ご高覧いただければ、まことに幸いです。

末筆ですが皆様のご健勝ご発展をお祈り申し上げます。

公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

基 本 理 念

- I キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を実践する。
(病む人、障害を持つ人の満足する医療を実践する。)
- II 「医療は、サービス業である。」
(“患者サービス第一”を原則とし、親切で親身な医療サービスを実践する。)
- III 「心と体に対し、調和の取れた医療・看護を目指す。」
(病む人を診る。病む人に優しい医療を実践する。)

基 本 方 針

- 1. ヴォーリス記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重し、常に診療を拒まず、迅速に診断・治療を行う病院となる。
- 2. 一般急性期、高齢慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。
- 3. 地域住民の疾病予防・健康的生活のため、地域ニーズを反映した保健・医療・介護活動の拠点として開かれた病院となる。
- 4. 地域の保健医療機関及び介護施設との連携を深め、在宅医療、在宅介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する病院となる。
- 5. ホスピス病棟と在宅介護サービス部門との協働により、在宅の看取りを可能にする病院となる。
- 6. 職員を大切にし、お互いが希望と意欲を持って、働き甲斐のある病院となる。

私 た ち の ち か い

- 1. 私たちは、患者さんのために最善をつくします。
- 2. 私たちは、患者さんの誰にも同じようにつかえます。
- 3. 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
- 4. 私たちは、患者さんのプライバシーをまもります。
- 5. 私たちは、知識・技術の向上につとめます。

目 次

理事長挨拶

病院長挨拶

病院基本理念 ・ 基本方針 ・ 私たちのちかい

1. 概要	ページ
病院組織図	1
病院事業報告	2-5
2. 2015 年度（平成 27 年）主な行事・出来事	6-8
3. 各部報告	
診療部	診療部 総括 9-13
医 局	14-16
診療支援室	17
診療技術部	診療技術部 総括 18-19
薬 局	20-21
診療放射線科	22
臨床検査科	23-26
栄 養 科	27-28
集団栄養指導	29
リハビリテーション科	30-31
メディカル フィットネスセンター ウォーリス	32-33
ME サービス室	34-37

看 護 部	看護部 総括	38-39
	1 病 棟	40-41
	2 病 棟	42-44
	3 病 棟	45-47
	緩和ケア病棟	48-49
	外 来 部 門	50-51
事 務 部	事務部 総括	52
	医 事 課	53-55
	管 理 課	56-59
	地域連携課	60-62
	企画渉外課	63-64
	システム室	65-66
在宅サービス部門	在宅サービス部門 総括	67
	訪問看護ステーション ウォーリス	68-70
	ホームヘルプステーション ウォーリス	71-72
	ウォーリス 居宅介護支援事業所	73
	介護予防拠点事業活動報告	74
診療情報管理室	診療情報管理室 総括	75-82
礼 拝 堂	礼拝堂 総括	83

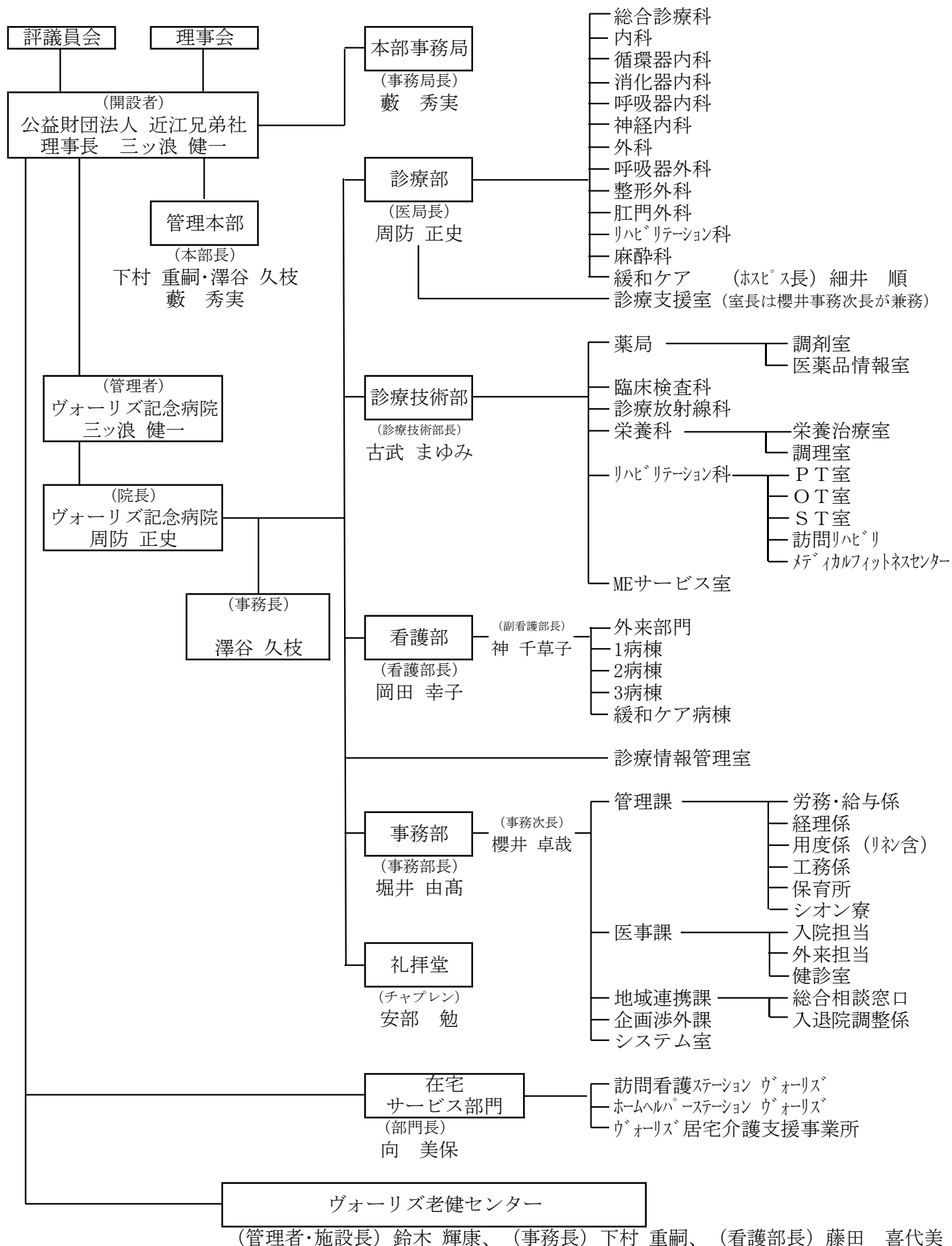
4. 委員会報告

委員会組織図	84-85
業務連絡・業務改善委員会	86
給与・規約プロジェクト委員会	87
自衛消防隊	88
安全衛生委員会	89
栄養管理委員会	90
広報委員会	91
接遇委員会	92
臨床検査適正化委員会	93
医療安全管理委員会	94
医療安全管理 リスクマネジメント委員会	95
教育委員会	96
全人的ケア推進委員会	97-98
褥瘡対策委員会	99
ボランティア委員会	100
院内感染防止対策委員会	101
診療情報管理委員会	102
病院機能評価委員会	103
個人情報保護対策委員会	104
クリニカルパス委員会	105
ワークライフバランス委員会	106-107
I T 情報管理委員会	108

概要

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院（及び関連事業体）

2015（平成27）年度 組織図（7月1日）



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
平成 27 年度 事業報告

27 年度のトピックスは、①2 月に取得した在宅療養支援病院単独型 3 の加算から緊急往診・在宅看取りの基準をクリアし、9 月に単独強化型のランクアップに繋ぐことが出来たこと。②27 年度の財政基金の補助金で、障がい児リハビリテーションの準備を整え、10 月より開始の運びとなったこと。③平成 28 年 1 月より医療療養入院基本料 2 から 1 へのランクアップ。④2 月より地域包括ケア病床を 5 床から 13 床に増床したことが挙げられる。

経営状況として、

前年対比では、医業収入は、+51,735 千円 (+2.7%)、医業費用は、+11,622 千円 (+0.6%)、医業収支差は、+40,113 千円、医業外収支差は、+15,415 千円となった。結果、増収増益、経常収支差額は、+128,088 千円となり、単年度では 3 期ぶりに 637 千円の黒字決算を確保できた（前年度は、診療報酬自主返還分 69,295 千円という一過性要因あり）。診療報酬自主返還については、今年度で全て終了した。

①入院は、一般病棟 45 床(2 月より 37 床)、稼働率 80.3%、単価 29,403 円、地域包括ケア病床 5 床(2 月から 13 床)、稼働率 100.9%、単価 31,468 円。一般で 6 月、7 月、8 月、12 月、3 月は予算に到達したが、8 月に平均在院日数が 21.1 日とクリアできず、9 月で長期入院の制限をしたため、稼働率が 73%、10 月 64.8%、11 月 76.8%と回復に 4 ヶ月を要した。入退院のコントロールの方法の見直しと併せて平成 28 年 2 月からの地域包括ケア病床の 7 床増床が、在院日数安定と単価アップに繋がっている。これらの教訓を活かし、新年度に向けて入院時から退院支援に積極的に関わる在宅療養支援の担当部署を確立した。

②回復期リハ 42 床は、予算・稼働率ともに上回り、稼働率 98.5%(前年度 94.1%)、単価も 35,799 円(予算 34,000 円)と好調な結果である。

加算要件は全てクリアしている。

紹介は、近江八幡医療センターが 82%を占めている。

③療養病棟 60 床では、稼働率 97.8%。単価も医療区分 2.3 の割合が 11 月より 80%を維持し、平成 28 年 1 月には要件を整え医療療養病棟入院管理料 2 から 1 への申請を

行った。結果、単価は 18,700 円(前 16,900 円)と増収となった。

満床状態の中、看取りの場面でゆっくりと関われる部屋がないことから、倉庫を診察室に改修し、臨時的に看取りの部屋として使用している。(通常診察室としているため、医療法問題なし)

傍ら医療度がアップした分、医療行為の増大・看取りの件数増であるため、業務改善、環境整備、人員配置の適正化が急務である。

④ホスピスでは、昨年 11 月に入職された医師を含め 2 名体制で、午前外来に切り替え、当日の入院にも応えるべく進めている。週 1 回近江八幡医療センターへ訪問し、緩和ケア医診療も継続している。稼働率は、前半 86.3%と前年に比べ 8%増でほぼ目標を達成できていたが、後半は 77.4%と目標を下回る結果となった。また、在院日数がやや長期化(26.3 日/前年 24.5 日)しているため、単価は予算より 1 千円減である。

⑤外来は、月平均 2,339 人(前年対比▲192 人)、一日平均患者数 95 人(前年対比▲2 人)、外来収入は 280,651 千円(前年対比▲8,797 千円)、予算対比▲30,349 千円であった。

減収の要因として、専門外来非常勤医師の集客性が期待できない状況が続いており、人件費に対する費用対効果は薄い。常勤医の不足状態で、特に消化器内科ではポリープ切除が出来ない状況である。内視鏡検査は週 4 日体制から、陣容が整い週 5 日に戻す目処がついた。現在受診されている患者を大切にしつつ、効率のよい外来機能へ再構築をする。

在宅療養支援病院の役割を果たすために、往診業務を拡大している。件数も後半 48 件、収入も 1,000 千円と順調よく伸びている。地域の開業医の先生方との連携を強化し、不在時のサポート、懇談会の開催を継続する。

⑥健診は、56,513 千円(前年対比+1,697 千円)の実績となった。但し、職員健診 4,704 千円分は、福利厚生費として戻している。

⑦リハビリテーション科の実績は、回復期リハ・地域包括ケア病床とも単位数をクリアできた。収入 303,158 千円、予算対比 101.5%の好結果である。東館屋上の緑地化がペンディングになっていたが、園芸療法の取り入れ、屋外での積極的な歩行訓練に環境を

整えるために、9月に整地を行った。

メディカルフィットネスセンターは、11月からの介護予防事業所の指定更新を済ませ、30年度まで継続する。次年度からは、市の総合事業として、3ヶ月更新を行いながら展開する予定である。一般会員の増員対策のひとつとして出前講座を積極的に行っている。

⑧人件費は、全体で1,451,100千円（前年対比+9,134千円・0.6%）となったが、依然収入に対する人件費率は67.3%と高止まりしている（前年対比2.3%改善）。賞与は前年の範囲内に収まっているが、退職金は長勤続者の退職金支払いもあり、前年対比+24,545千円と膨らんだ。また、非常勤医師給与が131,568千円（前年対比+10,534千円）と依然高く、外来診療の効率性・費用対効果の検証も継続課題である。

⑨就業環境面においては、ワークライフバランスプロジェクト3年目を迎え、課題を抽出し、基本給の見直し・時短勤務の積極的導入・メンタルヘルスの関わり等の充実にも配慮している。マイナンバー制度の管理体制を構築した。内部通告制度を取り入れ、研修会を通じて周知の準備を行った。

⑩経費関係では、東館の不動産取得税16,250千円、固定資産税が21,707千円（前年対比+5,797千円）と厳しい支出となった。一方、減価償却費は135,456千円（前年対比▲20,836千円）となり、今後も漸減していく見込みである。

また、昨年10月には空調関係の熱源設備を一新した。電気代・灯油代を合算したコスト減は既に効果を上げているが、平成28年度以降は年間10,000千円程度の効果を見込んでいる。

⑪人財の充足においては、医師の常勤確保が喫緊の課題である。当直非常勤医師の継続雇用、女性医師の時短勤務制を拡大するなど、勤務医の負担軽減を図っている。

看護師・介護士においては、リクルート活動2年目を迎え、他府県にも積極的に広げ、修学生制度の利用率を上げながら人材確保に繋げる。病院見学による求人も併せて活用している。

以上

ヴォーリス記念病院 貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
〔流動資産〕	579,964,713	〔流動負債〕	231,259,138
現金・預金	212,279,747	買掛金	62,137,538
医業未収金	319,162,124	未払金	51,601,010
未収金	8,039,174	預り金	10,424,590
棚卸資産	11,916,237	仮受金	0
前払費用	1,556,918	賞与引当金	56,000,000
役員従業員短期貸付金	29,080,000	一年以内返済長期借入金	51,096,000
他会計短期貸付金	0		
立替金	192,660		
仮払金	15,153		
貸倒引当金	△ 2,277,300		
		〔固定負債〕	908,485,919
〔固定資産〕	1,479,929,890	長期借入金	551,724,000
＜有形固定資産＞	1,475,365,895	他会計長期借入金	328,695,775
建物	1,305,027,279	長期未払金	28,066,144
構築物	33,980,085	退職給付引当金	0
医療用器械備品	76,824		
その他の器械備品	45,710,304	負債の部合計	1,139,745,057
車輜及び船舶	25,884		
土地	33,522,364		
リース資産	57,023,155	資本の部	
		国庫補助金等	296,940,000
＜無形固定資産＞	4,563,995	出資金	93,431,624
電話加入権	431,732	剰余金	
ソフトウェア	4,132,263	当期末処分剰余金	551,157,892
		(うち当期剰余金)	(637,690)
〔その他の資産〕	21,379,970	資本の部合計	941,529,516
出資金	585,000		
敷金	794,000		
長期前払費用	24,310		
保険積立金	19,976,660		
資産の部合計	2,081,274,573	負債・資本合計	2,081,274,573

2015 年度 主な行事・出来事

2015 年度（平成 27 年度）主な行事 出来事

4 月

- 1 日 入社式 新入職員 23 名、 前年途中入社 28 名
1 日～5 日 新入職員オリエンテーション
- 3 日 自己啓発セミナー （新入職者対象、ウォーターハウス）
- 28 日 H27 年 各部門・各部署の事業計画発表会

5 月

- 7 日 W. M. ヴォーリズ召天記念礼拝（近江兄弟社恒春園）
- 9 日 第86回 恒春園記念式（ヴォーリズ学園 平和礼拝堂）
- 12 日 「看護の日」イベント
- 16 日 病院 春季追悼会（ケアハウス信愛館）
- 21 日 東近江三方よし（近江温泉病院）
- 22 日 H27 年度 第14回 “生と死を考える会 淡海” 総会
- 25 日 第97回開院記念式・永年勤続・ボランティア表彰
新入職員歓迎会 （グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 27 日 ひこっと会議（神崎中央病院）

6 月

- 6 日 「ボランティアの集い・オリエンテーション」
- 11 日 ホスピス偲ぶ会 （グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 16.23.30 日
リスクマネジメント部会主催研修会
①年間集計発表 ②DVD 上映会「転ばぬ先の杖」③アンケート作成

7 月

- 4 日 「第41回 里モニター会オリエンテーション」
- 9 日 医療懇談会
- 22 日 クリーン大作戦（組織活性化委員会主催）

8 月

- 5 日 ホスピス希望館 “夏祭り”
- 9 日 ヴォーリズ記念病院見学会
滋賀県赤十字血液センターから日本赤十字有功章「金色有功章」受賞

9月

3. 4. 1 0. 1 1. 1 7. 1 8 日

教育委員会主催他部署体験

(今年度4月新規採用者と前年度途中入職者の常勤勤務者対象)

1 5 日 消防訓練

2 3 日 滋賀県病院協会ソフトボール大会 (今津総合運動公園)

2 6 日 近江八幡市社会福祉大会にて、在宅部門より6名、「永年勤続表彰」受賞

3 0 日 ひこっと会議 (ヴォーリズ記念病院)

10月

7. 9. 1 3 日 オクレンジャー (一斉連絡配信システム) 登録説明会

8 日 第22回初期消火競技会 (近江八幡消防署)

屋内消火栓の部：準優勝！ 消火器の部：入賞！

1 1 日 職員会主催 秋の厚生旅行 (日帰り、インスタント発明記念館他)

1 4 日～1 6 日 個人情報保護対策委員会主催研修会

「実践・情報モラル あなたの会社は大丈夫？

～人権に配慮した個人情報の取り扱い～」

1 7 日 病院 秋季追悼会 (ケアハウス信愛館)

2 2. 2 9 日 医療安全委員会主催研修会 「移乗の勉強会」

2 4 日 “リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 しが” 参加 (近江八幡休暇村)

2 5 日 第2回ヴォーリズすこやかフェスタ

11月

9. 1 1. 1 9. 2 0 日

接遇委員会主催研修

里全体の「接遇研修」 講師：吹田 康枝 氏

1 4 日 ホスピス偲ぶ会 (グリーンホテル Yes 近江八幡)

1 1 日・1 2 日 里教育委員会主催研修会

「認知症の理解と対応について」

講師：渡辺 哲弘 氏

2 3 日 管理職研修会

12月

- 4.10.24日 マイナンバー制度の研修
- 7.9.1月25日 院内感染防止対策委員会・医療安全管理委員会主催講演会
「インフルエンザウイルス感染症・ノロウイルス感染症と感染性胃腸炎」
「医薬品による、また関係する医療事故」
- 12日 2015 病院クリスマス祝会
- 22日 近江兄弟社グループ クリスマス祝会（ヴォーリズ学園 平和礼拝堂）
- 28日 仕事納め 院内巡視

平成28年1月

- 22日 社員会ボーリング大会（近江八幡エースレーン）
- 23日 2015年度第1回 ヴォーリズがんセミナー（ケアハウス信愛館）
「フランクから考える人生の意味」― 証しすること・つながり―
関西学院大学教育学部教授 岡本 哲雄 氏

2月

- 1日 創立111周年記念のタベ（グリーンホテルYes 近江八幡）
- 2日 第111回近江兄弟社創立年記念式典（近江八幡教会）
- 3.24日 公益通報制度についての研修
- 8日 教育委員会主催 インスタントシニア体験
講師：滋賀県社会福祉協議会 濱谷 氏
- 9日 滋賀医大合同カンファレンス
- 18日 第99回三方よし研究会（近江八幡医療センター、よしぶえホール）
- 20日 2015年度第2回 ヴォーリズがんセミナー（ケアハウス信愛館）
『その人らしさ』に寄り添う
訪問看護ステーション ふれんず 柴田 恵子 氏
- 26日 職員会主催「職員親睦会」（伝五郎 近江八幡店）

3月

- 1日 事業計画発表会
- 2日 里総合・消防署合同消防避難訓練
- 5日 H25年度 里モニター慰労会
- 6日 “生と死を考える会 淡海” 公開講演会（病院「研修室」）
「自分らしく生き、自分らしく死ぬ」～命の「作法」～
社会医療研究所所長 岡田 玲一郎 氏
- 19日 2015年度第3回 ヴォーリズがんセミナー（ケアハウス 信愛館）
「がんと闘うためには」
ヴォーリズ記念病院ホスピス医 奥野 貴史 氏
三方よし研究会（ホテルニューおうみ）

各部報告

診療部

◆消化器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0名
非常勤医師 : 5名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日・木曜日・金曜日・土曜日（第1・3・5週目）
入院 : 約 10 床

【診療内容】

常勤医師不在ですが、腹腔内臓器全般の診療、消化性潰瘍のヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法、炎症性腸疾患の治療、各種消化管疾患の治療、慢性肝炎のインターフェロン療法をおこなっています

◆循環器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 2名
非常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日
入院 : 約 20 床

【診療内容】

急性期から慢性期の患者さんに対応しております。心臓超音波検査・頸部動脈超音波（年間約1000例）やトレッドミル検査（年間約100例）他生理検査を行い、各種心疾患の早期診断、治療を行っております。

◆糖尿病内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0名

非常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

糖尿病の治療、教育入院、外来における糖尿病教室行っております。NST とも協力して、栄養評価、指導をよりきめ細かいものに行きます。

◆呼吸器科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

非常勤医師 : 4名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

市中肺炎から COPD 等の慢性肺疾患、結核や非定型抗酸菌症の診断や治療（現在結核入院は受け入れておりません）、肺癌の診断、気管支鏡検査、肺癌の治療（主に抗癌剤治療）、気胸手術など幅広く対応しております。アスベスト疾患の2次検診についても対応しています。

◆一般消化器外科・肛門科・麻酔科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

非常勤医師 : 1名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

急性期疾患（急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎など）から胃癌、大腸癌、胆嚢癌、膵癌などの消化器癌の診断、治療を行っています。肛門科は内痔核、裂肛、痔ろう、直腸脱、直腸粘膜脱などを幅広く対応しています。内痔核に対する四段階注射法（ジオン療法）を行っております。

◆整形外科

【スタッフ】

非常勤医師 : 7名

【診療体制】

外来診療日 : 木曜日・土曜日の午前診

入院 : 約 10 床（外科で対応）

【診療内容】

主に慢性期の患者さんに対応。診断（オープンタイプのMRIなど）及びリハビリテーションに力をいれております。非常勤医による手術も行っています。（外科での入院になります）。

◆リハビリテーション科

【スタッフ】

脳血管リハビリ専任医師 : 1名

運動器リハビリ専任医師 : 1名

呼吸器リハビリ専任医師 : 1名

【診療体制】

入院 : 約 46 床

【診療内容】

脳梗塞・脳出血後遺症、整形疾患、呼吸器疾患、パーキンソン病・多発脳梗塞・認知症の方に、理学療法、作業療法、言語療法を行っております。

地域包括ケア病床・回復期リハビリ病棟で入院リハビリを行っております。対象は脳血管疾患の急性期を過ぎた患者さん、整形外科や外科の術後などでリハビリが必要な患者さんです。地域連携パスにも参加しています。

◆神経内科

【スタッフ】

常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

脳梗塞、パーキンソン病、その他各種神経疾患の診断、治療そしてリハビリテーションを行っております。

◆緩和ケア部門

【スタッフ】

常勤医師 ： 3名

【診療体制】

外来診療日 ： 月曜日・火曜日・水曜日・金曜日いずれも午後

入院 ： 16 床（ホスピス病棟）

【診療内容】

ホスピス病棟（希望館）を開設して10年になりました。癌終末期の患者さんに緩和ケアを行っております。今後、湖東地域における緩和ケアの中心を担うべく、心の通ったケアを行っております。在宅ケアにも力を入れております。

◆認知症外来

【スタッフ】

非常勤医師 ： 1名（兼任）

【診療体制】

外来診療日 ： 水曜日午後

【診療内容】

アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の治療・リハビリ・相談を行っております。

医局

【目標】

1. 地域医療・福祉への積極的な関わりを推進する。地域医療構想や地域連携の中で、東近江医療圏における当院の位置づけと役割(後方支援病院としての役割)分担を明確にし「病一診」「病一病」連携を更に推進する。
2. 緩和ケア(在宅・ホスピス・デイ)への取り組み。ホスピス開設10周年記念講演を成功させる。
3. 回復期リハビリテーション病棟の稼働安定化を図る。
4. インフォームド・コンセントの徹底とチーム医療の確立。
5. 急性期疾患の患者の確保。
 - ・迅速な診断と的確な治療。
 - ・ベッドコントロールの適正化・迅速化。
6. 外来部門の効率化・専門外来の充実と、健診部門の充実。
7. 電子カルテの活用(効率化、地域ネットワーク、遠隔画像診断システムの導入)、クラークとの連携強化。

【教育】

個々の医師により研修や専門医試験に向けた研鑽を重ねる。

【今後の課題】

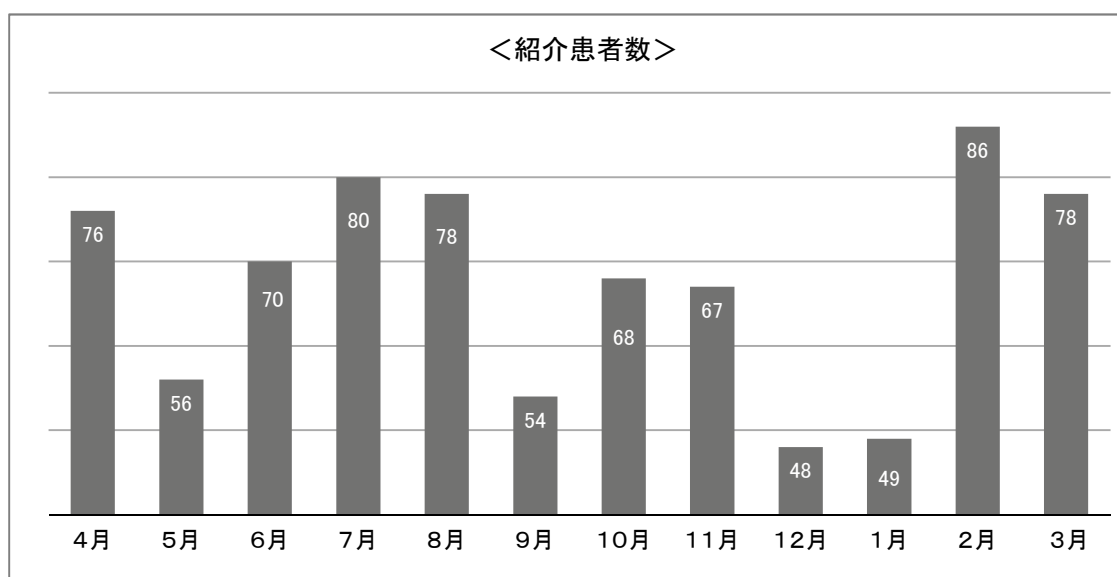
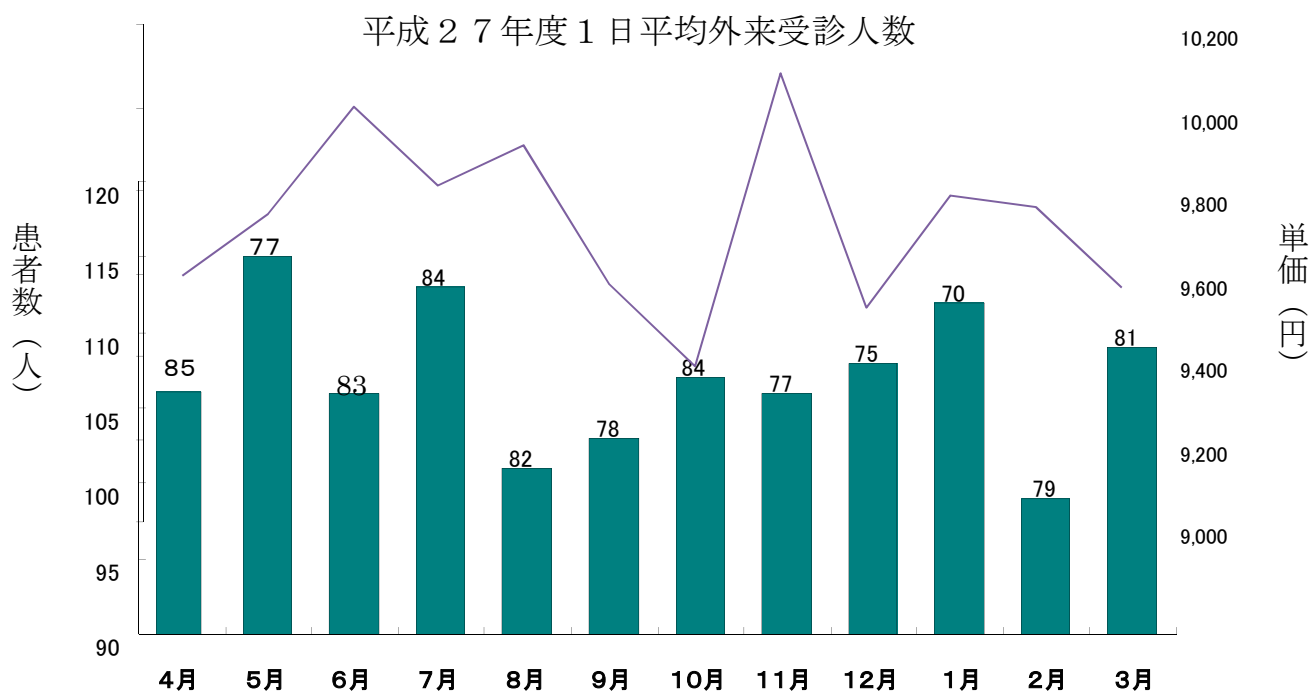
1. 医師事務クラークと協力し、外来事務補助をより効率的に行うことを目的とする。
2. 地域ネットワークへ参加し、びわ湖メディカルネットや淡海あさがおネットを更に活用する。
3. 訪問診療を効率的に運用する。
4. 常勤医の獲得に向け、積極的な活動を行う。

【平成27年度振り返り】

平成27年2月に在宅療養支援病院を届出し、訪問診療や緊急入院受入の本格的な取り組みを開始した。地域包括ケア病床を13床で運用開始し、稼働率確保に貢献した。

外来患者数は減少傾向で、予算上の目標達成はできなかったが、1日平均患者数は90人以上を確保した。

今後は在宅療養支援病院としての役割を強化し、他医療機関からの各種患者を速やかに受入、できるだけ早期に在宅復帰させて、外来や訪問診療患者数を増加させることが望まれる。



<平成 27 年度 手術件数>

手術名	件数	手術名	件数
痔核硬化療法(四段階注射法)	11	鼠蹊ヘルニア根治術	8
痔核根治術	15	肛門ポリープ切除術	5
胃 E MR	12	胸膜癒着術	4
開腹胆嚢摘出術	4	低位前方切除術	1
痔瘻根治術	3	直腸再吻合術	1
開腹胃瘻造設術	5	直腸拳上固定術	1
内視鏡下胃瘻造設術	2	右会陰皮垂切除	1
開腹胃瘻造設術	2	肛門括約筋側方切開術	1
腹腔鏡下回盲部切除術	2	総胆管結石摘出術	1
S 状結腸切除術	2	両外鼠径ヘルニア根治術	1
肛門形成術	2	腹壁癒痕ヘルニア修復術	1
皮膚腫瘍切除術	2	バルトリン腺嚢胞切除	1
胃全摘術	1	肩関節脱臼非観血的整復術	1
幽門側胃部分切除術	1	単純乳房切除術	1
胃空腸吻合	1	壊死部切除術	1
腹腔鏡下右半結腸切除術	1	直腸バルーン拡張術	1
横行結腸合併切除	1	皮下留置ポート除去術	1
人工肛門造設術（一時的）	1	気管切開術	1
腹壁ヘルニア修復術	1		
人工肛門閉鎖術	1		
内視鏡下結腸狭窄部拡張術	1	合 計	98

<平成 27 年度 検査件数>

	GFS	BS	CF	USTG	マンマ	甲状腺		GFS	BS	CF	USTG	マンマ	甲状腺
4 月	49	1	13	80	5	2	10 月	99	6	17	125	21	6
5 月	73	1	13	99	8	2	11 月	71	1	15	75	22	5
6 月	131	2	19	137	16	8	12 月	68	5	13	63	21	2
7 月	122	1	17	139	13	2	1 月	65	4	8	49	16	0
8 月	104	3	9	145	27	7	2 月	88	1	14	61	9	4
9 月	93	2	17	110	13	4	3 月	92	3	14	59	8	3
合 計								1055	30	169	1142	179	45

診療支援室

【スタッフ】

常勤職員 7 名。非常勤職員 1 名。

(常勤職員 8 月 1 名退職。9 月 1 名入職。3 月 1 名入職。非常勤職員 1 月 1 名退職。)

【目標】

- ・医師の負担軽減に対し、積極的に提言・提案ができるように努める。
- ・電子カルテの評価・分析に基づき、効率的な運用改善に努め、更新に向けて情報収集・役割分担に注力する。
- ・部署内の体制の整備・教育体制を整理し、チーム医療の推進を図る。

【活動報告】

- ・外来入力補助・文書作成補助等のルーチン業務に対しての医師の負担軽減に努めた。
- ・人員の充足により業務の拡充を図る。(病棟業務等)
- ・5 月連休明けより訪問診療業務の拡充により訪問先の日程調整、連絡等を支援室にて把握するようになった。

【実績】

- ・電子カルテの代行入力をはじめ、非常勤医師へのオリエンテーション、医師当直室・医局内の整理整頓、レセ病名の入力・訂正の代行入力に主治医意見書・医師意見書の代行入力、各種書類の下書き・清書書き、病棟の褥瘡の集計作業をはじめ、処方・注射切れの確認作業と医師への連絡業務等、医師の事務作業補助を基本に負担軽減に努めた。
- ・今年度より病棟業務への拡充を目指したが調整がうまくいかず、思うような業務の広がりが出来なかった。
- ・訪問診療の業務拡充により訪問先の日程調整、連絡等を支援室にて把握し円滑な業務に努めた。

【教育】

- ・滋賀県女性医師交流会参加「ドクターズクラークの活用」について。

【今後の課題】

- ・定期的な勉強会の実施、医師との教育方針について協議を行い、業務に必要な知識向上とレベルアップに努める。
- ・診療支援室内の整備、教育体制の見直しを行い、リーダー格としての人材の養成と育成に努める。
- ・スペシャリストの養成。
- ・病棟業務について看護クラークとの調整及び業務内容の再検討。
- ・今年度実施できなかった積極的な研修会への参加、院内勉強会の実施をする。

診療技術部

【H27 年度活動計画及び実績】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて、医療・介護の提供を実践する。

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。
地域包括ケアシステムのなかで、他院からの紹介等の患者が早期に地域に復帰できるように診療技術部各科が協力し、院内の他部門、地域の医療機関および施設と連携して支援する。
2. コンプライアンスを徹底し、公正な企業風土の確立を目指す。
3. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) 地域包括ケアシステムの中で各職種の役割を考え、実行する。
 - 2) 地域ニーズに合わせ、他職種によるチームで診療をサポートする。
NST、ICT、褥瘡、緩和ケアチーム、糖尿病教室、感染合同カンファレンス参加など
 - 3) 電子カルテはじめ各部門システムを患者さん中心に、効率化・省力化により部門とコミュニケーション良く連携して運用できるようにする。
 - 4) 地域 ICT（あさがおネット、びわこメディカルネット）の運用・連携により地域医療に貢献する。
 - 5) 病院機能評価に必要なデーター集積、マニュアル改訂を継続し、H28 年度書類審査に備える。
4. 各科 各人が目標数字を定め、到達できるよう毎月努力する。
 - 1) 目標数字を達成する。
昨年より収益増を目指す。収益増に結びつくように他部署に働きかける。
H27 年度介護保険改訂をも視野に入れて検討していく。
 - 2) 経費を削減する。消費税アップの影響が少なくするように取り組む。
 - 3) 人材を確保・育成し、各職員が人事評価制度における自己目標の達成をめざし、レベルアップを図る。
診療技術部内での発表の機会をもつ。
 - 4) 職員のコンピテンシー、規律遵守を促す。
(報告・連絡・サービス及び時間厳守・整理整頓)

5. 医療機器・医薬品の安全使用管理・情報提供を徹底し、医療事故を防止する。
 - 1) 医薬品・医療機器の講習会、点検を行い、関係部署に発信していく。
 - 2) 個人情報の漏洩防止に考慮し、医療安全への意識を高めインシデント・事故防止に努める。
6. 停電・天災等の災害時、新型インフルエンザ発生等に対する各科のマニュアルを整備し、危機管理体制を構築する。
7. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。

介護予防教室、病院・財団からの出前講座など地域の事業に各職種の職能を生かして関わる。

ヴォーリズすこやかフェスタ、がんセミナーに職能を活かし積極的に関わる。

病院の広報誌、ホームページで各職種の働きを地域にアピールする。

【H28 年度の課題】

診療技術部以外の部門、部署と連携を取り、各科の職能を発揮して協力して業務にあたり、患者の治療に貢献する。

各科の技能、知識を更に向上させて医療の質の向上を目指す。

H28 年 4 月の診療報酬改定に各科対応する。

薬局

【スタッフ】

常勤薬剤師 6 名、非常勤薬剤師 1 名

【目標】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて医療の提供を実践する。

1. 医療サービスの向上に努める。
2. 病棟薬剤業務加算取得を継続する。
3. 目標数字を達成する。
4. 人材を育成し、各職員が人事評価制度における自己目標達成をめざしレベルアップを図る。
5. 機能評価審査受審に必要なデーターの蓄積、マニュアル改訂を継続する。
6. 医薬品情報の伝達。

【活動報告】

1. 病棟薬剤業務加算を取得継続した。
薬剤師が病棟業務において医師の処方設計に関わり、その成果をプレアボイド報告として実績を積み重ねることができた。医薬品使用患者の安全、副作用防止に寄与できた。
2. すべての抗がん剤調製を、閉鎖式器具を使用して薬剤師がおこなった。
3. ほとんどの病棟で定期の一般輸液調製を薬剤師が実施している。
4. プレアボイド報告数（日本病院薬剤師会の事業）が滋賀県の病院のなかで多く、報告発表を行い表彰された。
5. 実務実習学生を 2 名受け入れた。

【実績】

H27 年	入院人数(人)	指導人数(人)	指導率	380 点(件)	325 点(件)	退院 90 点(件)	退院指導率
4 月	154	106	68.80%	103	93	37	80.40%
5 月	151	114	75.40%	98	97	18	66.60%
6 月	154	124	80.50%	147	90	29	80.50%
7 月	152	118	77.60%	127	56	24	64.80%
8 月	142	121	85.20%	119	92	25	78.10%
9 月	141	130	92.10%	88	109	37	78.70%
10 月	144	117	81.25%	101	70	17	54.83%
11 月	139	116	83.50%	142	94	21	75.00%
12 月	153	126	82.30%	172	99	35	81.30%
1 月	151	132	87.40%	142	115	28	71.40%
2 月	144	125	86.80%	173	120	25	65.70%
3 月	151	111	73.50%	138	109	22	59.40%

【教育】

薬学生実務実習指導薬剤師アドバンスワークショップ参加
日本医薬品情報学会学術大会参加
日本糖尿病協会療養指導学術大会参加
日病薬 療養病床委員会セミナー参加
滋賀県病院薬剤師会学術大会参加
京滋 NST 研究会参加
日本病院薬剤師会近畿学術大会 参加
日本静脈経腸栄養学会学術集会参加

その他、病院薬剤師会、薬剤師会主催研修会に多数参加。

【今後の課題】

- ・ 病棟薬剤業務加算を継続、充実を図り、医療チームの中で薬剤師職能を生かして情報を発信する。
- ・ 後発品使用体制加算の取得を目指す。
- ・ 抗がん剤調製時、無菌製剤加算が取得できるように安全キャビネットを導入する。

診療放射線科

【スタッフ】

常勤診療放射線技師 4名

【目標】

- ① 地域連携課と連携をし、紹介患者様の検査結果を迅速・確実に返答する。
- ② 近隣施設と情報交換を行う。

【活動報告】

地域連携課とその他関係部署と連携を行い、紹介患者様の検査及び結果返答がスムーズにできた。また、各種研修・会議にて近隣施設の検査状況や収支について情報を得ることができた。

【実績】

<CT撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H26	236	224	248	281	282	254	255	214	211	254	204	263	2926
H27	245	222	239	252	228	225	255	259	240	210	223	224	2822

<MRI撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H26	94	104	106	110	93	98	94	93	93	91	86	106	1168
H27	92	74	99	109	101	75	91	87	86	74	107	98	1093

<一般撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H26	610	673	726	755	596	570	647	568	579	591	673	554	7542
H27	542	580	663	670	574	547	616	559	527	527	702	594	7101

【教育】

第42回 CT画像研究会

消化器ガン検診の「いま」そして「これから」

第22回 関西MRI研究会

第43回 CT画像研究会

第38回 近畿支部放射線研修会

【今後の課題】

- ・CR装置が10年を超えたため、CRもしくはFPD更新を検討。
- ・MRIが15年目に入っており、更新及び設置場所の検討もしくは、病院の機能を考慮し今後MRIが必要かの検討を行う。

臨床検査科

臨床検査科

【スタッフ】

生理検査部門	常勤臨床検査技師	1名	科長 鯉江 賢二
	非常勤臨床検査技師	2名	
検体検査部門（ブランチラボ）	常勤臨床検査技師	1名	
	非常勤臨床検査技師	2名	

【目標】

検査病態を意識し検査業務に取り組む事をモットーとし、患者に不可欠な臨床検査を目指します。

【活動報告】

当臨床検査科は生理検査部門と検体検査部門に分かれています。生理検査部門は心電図等の循環器検査並びに肺機能測定等の生理検査を実施しています。平成24年5月より睡眠時無呼吸症候群の（SAS）の診断に役立つ携帯型SAS検査を導入致しました。又、DLco（肺拡散能力）検査ができる総合肺機能測定装置（カガ電子）を使用提案し、採用致して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。そして、ホルター心電図（24時間心電図）検査は今までより、より軽減に検査ができる様、装着器の大きさはマッチ箱サイズで上腕に取り付けるタイプの最新式の検査装置（カガ電子）を採用しています。検体検査部門は2005年12月1日よりブランチラボ（検査センターメディック）になりました。院内にて緊急項目の血液並びに尿検査を実施しています。又、平成24年5月から糖尿病の診断又は治療の基準となるヘモグロビンA1C検査を院内にて実施しています。

【実績】

生理検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会員
- ③ 日本不整脈心電学会員
- ④ 日本超音波検査学会
- ⑤ 日本睡眠学会員
- ⑥ チーム医療CE研究会員

- ⑦ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑧ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑨ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤

学会認定

- ① 日本不整脈心電学会 認定心電検査技師
- ② 日本不整脈心電学会 心電図検定 2 級
- ③ 日本臨床検査医学会 二級臨床検査士（呼吸生理学・循環生理学）
- ④ 日本臨床検査医学会 緊急臨床検査士
- ⑤ 日本生体医工学会 第二種 ME 技術者
- ⑥ 日本睡眠教育機構 睡眠健康指導士上級

検体検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会会員
- ③ 滋賀県臨床検査技師会役員

学会認定

- ① 日本臨床検査医学会 認定二級臨床検査士（臨床化学）

検体検査加算件数

平成 26 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算件数	720.6	725	737	710	743	714	702	749	708	672	814	649	725
平成 27 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算件数	684	725	669	689	741	706	637	711	643	638	668	675	705

評 価

2003. 12. 15 に日本病院機能評価 V4 認定。

2008. 12. 15 に日本病院機能評価 V5 認定。

2013. 12. 6 に日本病院評価一般病院 1 認定。

社会保険事務局施設基準：検体検査管理加算（Ⅰ）H15. 12. 1 受理。

社会保険事務局施設基準（施設基準改正による）：検体検査管理加算（Ⅰ）H20. 5. 1 受理。

検体検査部門を平成 17 年 12 月 1 日からブランチラボとなりました。

【教育】

研修・勉強会

院内勉強会

- ① 心電図勉強会 “心電図（12誘導）について”

日時：平成 27 年 6 月 24 日 場所：臨床検査科生理検査室内

- ② 簡易 PSG（携帯型 SAS）検査について

日時：平成 27 年 10 月 10 日 場所：臨床検査科生理検査室内

- ③ インフルエンザウイルス検査の為の鼻腔拭い液採取の実技実習

標準純音聴力検査実技実習

日時：平成 28 年 3 月 5 日 場所：臨床検査科生理検査室内

研修会・セミナー参加

- ① 簡易 SAS 診断研究会主催 第 4 回簡易 SAS 研究会 (出 張)

日時：平成 27 年 5 月 30 日 (土)

場所：ミッドランドホール

- ② フクダ電子(株)主催 心電図講習会 “初級コース” (出 張)

日時：平成 27 年 6 月 6 日 (土)

場所：TKP ガーデンシティ大阪 OAP タワー24F

- ③ 滋臨技主催第 2 回臨床生理研修会「いまさら聞けない心電図の基礎」(自費研修)

日時：平成 27 年 6 月 19 日 (金)

場所：草津総合病院

- ④ 滋臨技主催 第 3 回臨床生理研修会「スパイロメトリー〜ガイトラインから臨床」(自費研修)

日時：平成 27 年 7 月 3 日 (金)

場所：滋賀医科大学医学部附属病院

- ⑤ フクダ電子(株)主催 心電図講習会 “基礎 A コース” (出 張)

日時：平成 27 年 7 月 4 日 (土)

場所：TKP ガーデンシティ大阪 OAP タワー24F

- ⑥ チーム医療 C E 研究会西日本主催第 7 2 回臨床セミナー“呼吸療法 Brush up”(出 張)

日時：平成 27 年 7 月 11 日 (土) 12 日 (日)

場所：たかつガーデン

- ⑦ 第 30 回日本不整脈学術大会第 32 回日本心電図学会学術集会教育講座(自費研修)

日時：平成 27 年 7 月 30 日 (木)

場所：国立京都国際会館

- ⑧ 日本心電学会主催 心電図がわかる！サマーセミナー2015 (出 張)

日時：平成 27 年 8 月 8 日 (土) ～9 日 (日)

場所：東京医科歯科大学湯島キャンパス

- ⑨ フクダ電子(株)主催 心電図講習会 “基礎Bコース” (出張)
日時：平成27年8月22日(土)
場所：TKP ガーデンシティ大阪 OAP タワー24F
- ⑩ 自動呼吸機能検査研究会主催第12回自動呼吸機能検査研究会発表会(自費研修)
日時：平成27年8月29日(土)
場所：フクダ電子近畿販売株式会社研修室
- ⑪ 奈臨技主催機能分野実技講習会 呼吸機能編・心電図編 (自費研修)
日時：平成27年10月3日(土)
場所：奈良県立医科大学附属病院中央臨床検査部
- ⑫ 奈臨技主催 奈良県認定心電検査技師認定資格更新研修会 (自費研修)
日時：平成27年11月1日(日)
場所：奈良県立医科大学 厳櫃会館
- ⑬ 日臨技近畿支部主催 生理検査研修会『コース別生理検査講座』心電図コース(出張)
日時：平成27年11月8日(日)
場所：関西医科大学枚方キャンパス
- ⑭ 三臨技主催三臨技プログラム日臨技認定心電検査技師更新指定研修会(自費研修)
日時：平成27年11月21日(土)
場所：三重大学医学部附属病院新外来棟5階大ホール
- ⑮ 自動呼吸機能検査研究会主催 “びわこセミナー” (自費研修)
日時：平成27年11月28日(土)
場所：ラフォーレ琵琶湖
- ⑯ 福/石/富/臨技生理検査研究班主催 第3回北陸心電図セミナー (自費研修)
日時：平成27年11月29日(日)
場所：福井県国際交流会館
- ⑰ 京臨技主催 生理検査分野 心電図研修会 (自費研修)
日時：平成28年1月14日(木)
場所：京都第二赤十字病院
- ⑱ 京臨士主催 北部勉強会-呼吸療法編- (自費研修)
日時：平成28年2月21日(日)
場所：綾部市立病院
- ⑲ クリニカルサポート主催 “はじめての心エコーセミナー” (出張)
日時：平成28年3月27日(日)
場所：大阪サポートセンター

【今後の課題】

- ・肺機能検査の精度管理の充実

栄養科

【スタッフ】

常勤管理栄養士（3名） 常勤調理師（12名） 非常勤調理員、調理補助その他（3名）

【目標】

- 1) クリニカルサービス（栄養管理）とフードサービス（給食管理）の両面から「体と心に対し、調和のとれた食事」の提供を目指す。
- 2) N S Tの充実を図るとともに、各種地域連携パスに参画し、地域に向けた総合的な栄養ケアに取り組む。
- 3) ムダを省き、増収に繋がる業務を遂行する。
- 4) スタッフの自己啓発を支援し、心身の健康管理に留意。

【活動報告】

- 1) N S T活動において、嚥下訓練食の複雑な個別対応、注入食の提案、栄養補助食品の用途別提案などで栄養状態の改善を精力的に行った。
- 2) 注入食の RTH 製剤への切り替え。
- 3) 実習生(同志社女子大)の受け入れ。
- 4) 糖尿病教室及び生活習慣病教室の定期開催。
- 5) 厨房内、清掃記録表を作成し衛生管理を強化した。

【実績】

収益（療養費）

療養費収益及び特食比率					
月	特別食	比率（％）	一般食	比率（％）	合計
4	1,691,908	22.2	5,938,560	77.8	7,630,468
5	1,767,804	22.3	6,172,800	77.7	7,940,604
6	1,711,956	21.7	6,172,880	78.3	7,882,836
7	2,163,036	26.6	5,965,440	76.4	8,128,467
8	2,462,324	30.4	5,642,240	69.6	8,104,564
9	2,099,312	28.9	5,159,040	71.1	7,258,352
10	2,396,452	31.5	5,216,000	68.5	7,612,452
11	2,379,984	31.6	5,155,840	68.4	7,535,824
12	2,590,488	31.7	5,580,800	68.3	8,171,288
1	1,987,616	25.5	5,809,280	74.5	7,796,896
2	1,962,556	25.2	5,813,760	74.8	7,776,316
3	2,143,704	25.3	6,239,360	74.4	8,383,064
合計	25,357,140	26.9	68,864,000	73.1	94,221,140

収益（指導料）

診療報酬	外来 (1300)	入院 (1300)	集団 (800)	N S T (2000)	合計
	加算	加算			
4 月	9, 100	0	14, 400	0	23, 500
5 月	6, 500	0	12, 000	0	18, 500
6 月	6, 500	0	10, 400	0	16, 900
7 月	6, 500	0	12, 000	0	18, 500
8 月	2, 600	2, 600	9, 600	0	14, 800
9 月	9, 100	0	10, 400	0	19, 500
10 月	9, 100	0	10, 400	0	19, 500
11 月	5, 200	1, 300	10, 400	0	16, 900
12 月	11, 700	2, 600	11, 200	0	25, 500
1 月	2, 600	1, 300	14, 400	0	18, 300
2 月	2, 600	2, 600	12, 000	0	17, 200
3 月	10, 400	1, 300	8, 800	0	20, 500
合計	81, 900	11, 700	136, 000	0	229, 600

【教育】

（研修・研究）

- 滋賀県栄養士会主催研修会：管理栄養士
- 日本栄養士会主催研修会(TNT-D 研修会)：管理栄養士
- 滋賀 CDE：管理栄養士
- 日本静脈経腸栄養学会：管理栄養士
- 京滋摂食嚥下を考える会：管理栄養士
- 京滋N S T研究会：管理栄養士

【今後の課題】

- 1) N S T加算の取得。
- 2) 特食率上昇の取り組み。
- 3) 栄養指導件数の増加。
- 4) 異物混入などのインシデントの減少。

集 団 栄 養 指 導

2015 年度 集団栄養指導



糖尿病教室

*時間：第4木曜日 午後12時～午後1時半

*場所：研修室（療養棟下）

*内容：治療食の試食と各スタッフによる勉強会

1月22日（木）	理学療法士
2月26日（木）	管理栄養士
3月26日（木）	看護師
4月23日（木）	薬剤師
5月28日（木）	医師
6月25日（木）	管理栄養士
7月23日（木）	看護師
8月27日（木）	薬剤師
9月24日（木）	医師
10月22日（木）	理学療法士
11月26日（木）	管理栄養士
12月17日（木）	医師



リハビリテーション科

リハビリテーション科

【スタッフ】

理学療法士 25 名、作業療法士 13 名、言語聴覚士 5 名の計 42 名
(内非常勤理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名含む)

【目標】

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。
 - 1) 回復期リハビリテーション病棟の充実したリハビリテーションの継続実施。
(6 単位以上／日、休日単位数増加、365 日実施)
 - 2) 地域包括ケア病床におけるリハビリテーション (2 単位以上／日) を充実させる。
 - 3) 急性期～維持期のどのステージにおいても医療から介護へシフトする機関であることを再認識し、在宅復帰支援強化に努める。
 - 4) がんのリハビリテーション、障がい児者のリハビリテーションは年度内に実行し、心臓リハビリテーションにおいては実行できる体制づくりを行う。
 - 5) 介護報酬改定後の訪問リハビリテーションを安定稼働させ、将来的な事業拡充の検討をする。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
3. 各部門 各人が目標数字を定め、到達できるように日々努力する。
 - 1) 目標数字を達成する (30,043 万円)。
 - 2) 各部門リーダーは定期的に業績推移を確認し、効率的な業務運営をはかる。
 - 3) 経費を削減する。
 - 4) 全スタッフに目標達成に向けた取り組みや結果を毎日報告し、状況を共有する。
4. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。
 - 1) 近江八幡市の業務委託（地域支援事業、各種施策会議）等、積極的に取り組む
 - 2) システムのなかで充実すべきサービスを見極め、強化していく。

【活動報告】

1. 回復期リハビリテーション病棟平均単位数は、6.41 単位、休日単位数単位 3.92 であった（表 1 参照）。
2. 地域包括ケア病床平均単位数は、2.75 単位であった（表 2 参照）。
3. 障害児・者のリハビリテーションは 2015 年度 10 月より開始した。
4. 平成 27 年介護報酬改定によって新設された社会参加支援加算の取得に向けて取り組み、平成 28 年度より算定可能となった。
5. 年間収益は 303,158,190 円（予算比 101.5%、前年比 104.4%）であった。

【実績】

表 1—回復期リハビリテーション病棟実績 (2015. 04. 01～2016. 03. 31)

	回復期リハ病棟 (休日外)	回復期リハ病棟 (休日)	合計
① 回復期リハビリテーション病棟に入院していた患者の延入院日数	12197	2956	15153
② 上記患者に提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	85675	11591	97266
イ：心大疾患リハビリテーション総単位数	0	0	0
ロ：脳血管疾患等リハビリテーション総単位数	56962	7833	64795
ハ：運動器リハビリテーション総単位数	28713	3758	32471
ニ：呼吸器リハビリテーション総単位数	0	0	0
1日当りリハビリテーション提供数 (②/①)	7.02	3.92	6.41
算出期間における休日・休日以外の日数	294	72	366

表 2—地域包括ケア病床 リハビリテーション平均単位数 (2015.04.01～2016.03.31)

心大血管疾患リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0
脳血管疾患等リハビリテーション	4.23	3.32	3.79	1.91	2.65	0	3.15
(内訳) 廃用以外	4.23	3.46	3.79	1.91	2.53	0	3.19
(内訳) 廃用	0	2.55	0	0	2.87	0	2.8
廃用症候群リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	2.66	3.08	2.35	2.78	2.91	2.73	2.77
呼吸器リハビリテーション	1.87	1.36	2.7	2.78	1.41	2.56	2.12
がん患者リハビリテーション	0	1.46	2.42	1.28	0	2.91	2.38
合 計	2.51	2.92	2.84	2.6	2.61	2.7	2.75

【今後の課題】

1. 作業療法士・言語聴覚士の充足
2. 心臓リハビリテーション認定士資格取得、当該リハビリテーションの実施
3. 訪問リハビリテーション事業拡大

メディカル・フィットネスセンター ヴォーリス

【スタッフ】

常勤スタッフ 社会福祉主事・トレーナー 1 名 介護福祉士 1 名

非常勤スタッフ 健康運動指導士 1 名 理学療法士 2 名

【目標】

1. 介護予防デイサービス（要支援認定を受けておられる方に対するサービス）
開催日 月、火、木、金曜日
上限定員の 80 パーセント以上の安定的な稼働率を目標とする。
2. 一般会員（自立生活を送られている方に対するサービス）
利用者の方へ健康に対する定期的な集団指導やイベントを企画して、利用者の健康への意識を高め退会数を減少させる。
3. 利用する全ての方へニーズや症例に応じたキメ細かいサービスを行えるように気をくばり、利用者の QOL と顧客満足度の両方の向上を目指す。
4. 「里」内や他の関連事業所との連携を例年以上に強く取り、デイサービス、一般会員への入会の流れへと展開する。
5. スタッフの知識と技術の向上を図るため、個々の専門分野のさらなる知識や技術の習得に力を入れ、それを他のスタッフへ研修で伝える事により個々の実力の向上を目指し、利用者の方へより良いサービスを提供することを目指す。
6. デイサービスの送迎スタッフの確保をして、業務を円滑に進められることを目指す。

【活動報告】

1. デイサービス 月・火・木・金 9:30 から 11:30 の運営
2. フィットネス会員 上記以外の時間（日・祝日を除く）
デイサービス、フィットネス会員共に有酸素運動機器や筋肉トレーニング機器などを使用して、基礎体力向上、身体能力向上、リハビリを目的とした運営を行いました。
3. 市内の自治区や活動団体からの依頼による運動講習、ヴォーリス介護予防教室などの出前講座やヴォーリスフェスタでの講師を実施しました。
4. 2016 年 4 月より開始される、近江八幡市総合事業についての市の説明会への参加。
当院への来訪による担当職員との事業内容説明や委託料金の交渉などを数回にわたり行いました。2016 年 5 月より市委託事業サービス C（パワーあっぷ！）を受託しました。

【実績】

	デイサービス利用者数	給付単位	フィットネス会員数	収入金額
4 月	17	49,451	47	181,861
5 月	16	47,504	47	197,998
6 月	14	42,279	47	203,199
7 月	16	49,771	49	197,888
8 月	18	53,431	52	198,510
9 月	18	53,431	48	202,184
10 月	18	55,230	48	206,838
11 月	17	51,484	50	211,292
12 月	18	53,197	51	260,898
1 月	17	49,685	52	210,594
2 月	17	51,250	51	201,996
3 月	16	47,504	50	409,586
合計	202	604,217	592	2,683,444

【教育】

- ・介護サービス事業所・施設管理者等研修会
- ・介護予防研修会
- ・通所介護事業所 集団指導
- ・高齢施設における感染対策
- ・身体活動量向上と運動習慣ための指導方法 合同学術大会

【今後の課題】

- ・フィットネスセンターの収益確保のための今後の方向性の決定。
- ・日常生活支援総合事業サービスC（近江八幡市からの委託）の事業の安定した運営。
- ・デイサービス利用者数の確保のための自治体やケアマネージャへの働きかけの実施。
- ・フィットネス会員の退会防止のためのイベントの実施。

ME サービス室

【スタッフ】

常勤臨床工学技士 1名 室長 鯉江 賢二

【目標】

院内の医療機器の保守点検を行い、医療の質の向上と患者に対する医療サービスの向上を目指します。

【活動報告】

近年、多くの医療機器が医療の現場で使用されるようになりました。これらの機器を安全に信頼高く操作、管理することはたいへん重要です。当 ME サービス室（臨床工学部門）は、院内の医療機器の保守点検を行っています。そして在宅用の人工呼吸器並びに非侵襲的人工呼吸器と睡眠時無呼吸症候群の治療に経鼻的持続陽圧呼吸装置（CPAP）の貸し出しを行い、在宅医療に力を入れています。

【実績】

- ① 公益社団法人日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会実習指導者
- ② 公益財団法人医療機器センター在宅人工呼吸器に関する指導者
- ③ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ④ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑤ 日本不整脈心電学会員
- ⑥ 日本睡眠学会員
- ⑦ チーム医療 CE 研究会員
- ⑧ 公益社団法人日本臨床工学技士会員
- ⑨ 滋賀県臨床工学技士会員
- ⑩ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤

学会認定

- ① 3 学会（日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会）合同呼吸療法認定士
- ② 日本生体医工学会 認定第二種 ME 技術者
- ③ 米国集中治療医学会 FCCS プロバイダー
- ④ 米国集中治療医学会 FCCS インストラクターアシスタント
- ⑤ 日本睡眠教育機構 睡眠健康指導士上級
- ⑥ 日本不整脈心電学会 心電図検定 2 級
- ⑦ 医療機器安全管理料件数

平成 26 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器安全管理料件数	1.25	2	2	0	0	0	2	2	3	2	0	1	1

平成 27 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器安全管理料件数	1.67	3	3	3	0	1	1	1	3	3	0	1	2

評 価

社会保険事務局施設基準：医療機器安全管理料 1 平成 20 年 4 月 1 日受理

2008 年 12 月 15 日に日本病院機能評価 V5 認定。

2013 年 12 月 6 日に日本病院評価一般病院 1 認定。

【教育】

院内勉強会

①従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

非侵襲的人工呼吸器 帝人(株) N I P III[®] 使用方法について

1 病棟にて 平成 27 年 4 月 11 日（土）

②従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

小型シリンジポンプ テルモ(株) T E - 361[®] 使用方法について

ホスピス病棟スタッフステーションにて 平成 27 年 4 月 15 日（水）

③従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

人工呼吸器についてと回路、人工鼻の交換実習 機種：iVENT201 GEヘルスケア社

臨床検査科生理検査室にて 平成 27 年 6 月 2 日（火）

④従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

心電勉強会 “心電図(12誘導)について” メーカー：フクダ電子(株) 機種：F C P - 4720

臨床検査科生理検査室にて 平成 27 年 6 月 24 日（水）

⑤従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

人工呼吸器の安全使用の為の研修 機種：iVENT201 GEヘルスケア社

臨床検査科生理検査室にて 平成 27 年 7 月 3 日、10 日、17 日、24 日、31 日（金）

⑥従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

非侵襲的人工呼吸器 チェスト(株) 機種：vivo40[®] 使用方法について

3 病棟にて 平成 27 年 10 月 9 日（金）

研修会・セミナー参加

- ① チーム医療CE研究会西日本主催 呼吸ケアセミナー “人工呼吸器編” (出張)
日時：平成27年5月16日(土)
場所：エル・おおさか
- ② 簡易SAS診断研究会主催 第3回簡易SAS診断研究会 (出張)
日時：平成27年5月30日(土)
場所：ミッドランドホール
- ③ フクダ電子株式会社主催 心電図講習会 “初級コース” (出張)
日時：平成27年6月6日(土)
場所：TKPガーデンシティ大阪 OAP タワー24F
- ④ 滋臨技主催 第2回臨床生理研修会「いまさら聞けない心電図の基礎」(自費研修)
日時：平成27年6月19日(金)
場所：草津総合病院
- ⑤ 滋臨技主催 第3回臨床生理研修会「スパイロメリー〜ガイトラインから臨床」(自費研修)
日時：平成27年7月3日(金)
場所：滋賀医科大学医学部附属病院
- ⑥ フクダ電子株式会社主催 心電図講習会 “基礎Aコース” (出張)
日時：平成27年7月4日(土)
場所：TKPガーデンシティ大阪 OAP タワー24F
- ⑦ チーム医療CE研究会西日本主催第72回臨床セミナー “呼吸療法Brush up”(出張)
日時：平成27年7月11日(土)12日(日)
場所：たかつガーデン
- ⑧ 第30回日本不整脈学術大会・第32回日本心電図学会学術集会教育講座(自費研修)
日時：平成27年7月30日(木)
場所：国立京都国際会館
- ⑨ 日本心電学会主催 心電図がわかる！サマーセミナー2015 (出張)
日時：平成27年8月8日(土)～9日(日)
場所：東京医科歯科大学湯島キャンパス
- ⑩ フクダ電子(株)主催 心電図初級基礎Bコース (出張)
日時：平成27年8月22日(土)
場所：TKPガーデンシティ大阪 OAP タワー24F

- ⑪ 自動呼吸機能検査研究会主催 第12回自動呼吸機能検査研究会発表会（自費研修）
日時：平成27年8月29日（土）
場所：フクダ電子近畿販売株式会社研修室
- ⑫ 奈臨技主催 機能分野実技講習会～呼吸機能編～・～心電図編～（自費研修）
日時：平成27年10月3日（土）
場所：奈良県立医科大学附属病院中央臨床検査部
- ⑬ 日臨技近畿支部主催 生理検査研修会『コース別生理検査講座』心電図コース（出張）
日時：平成27年11月8日（日）
場所：関西医科大学枚方キャンパス
- ⑭ 自動呼吸機能検査研究会主催 “びわこセミナー”（自費研修）
日時：平成27年11月28日（土）
場所：ラホーレ琵琶湖
- ⑮ 福/石/富/臨技主催 第3回北陸心電図セミナー（自費研修）
日時：平成27年11月29日（日）
場所：福井県国際交流会館
- ⑯ 京臨技主催 生理検査分野 心電図研修会（自費研修）
日時：平成28年1月14日（木）
場所：京都第二赤十字病院
- ⑰ 京臨士主催 第13回人工呼吸器安全管理セミナー（自費研修）
日時：平成28年1月17日（日）
場所：京都リサーチパークバズホール
- ⑱ 京臨士主催 “明日から役立つRSTの知識”（自費研修）
日時：平成28年2月4日（木）
場所：四条大宮京都幸ビル3階会議室
- ⑲ 京臨士主催 北部勉強会-呼吸療法編（自費研修）
日時：平成28年2月21日（日）
場所：綾部市立病院

【今後の課題】

- ・在宅酸素関連の院内研修が実施できなかったため、来年度に研修会を予定する。

看護部

【H27 年度活動計画及び実績】

1) 一人ひとりを尊重した質の高い看護・介護を提供する。

- ・ KOMI 理論を看護理論とした看護・介護が展開出来るよう、看護部委員会（教育・KOMI 推進・記録）が中心となり記録監査システムを図りケアの質向上に努めた。
- ・ 院内感染対策として、年 2 回院内巡視や予防に努め院内感染事例の発生はなかった。
- ・ 退院アンケート、皆様の声、苦情の意見を看護部内で検討・対応し改善を図った。
- ・ 人事制度の基、病院・部門・部署目標を軸とした個人目標を掲げ能力向上に努めた。年 2 回の面談、看護部拡大会議（年 3 回）にて支援した。
- ・ 各種カンファレンス「インシデント・アクシデント・倫理。ケア」各部署、管理者会議にて定例化し確実に開催し質向上を図った。
- ・ 認知症ケア充実のための研修 2 回、先行取り組み施設の見学後 1・2 病棟にて院内デイケアをスタートした。
- ・ 機能評価審査での C・b 項目への改善について定例会議の中で解決していった。

2) 新人、現任教育の充実を図り、よりよい看護を担う人材の育成を行う。

- ・ キャリアシートに基づき、教育ラダー・KOMI 教育ラダーを活用し教育を行った。
- ・ 各病棟単位で機能に合わせた教育計画を立て教育を行った。又、看護部全体に開示し学びの場を拡大した。
- ・ 平成 26 年度導入した「e ラーニング」による教育体制をラダーに組み入れ集合と自己教育の充実を図った。
- ・ 看護部職員一人一人が「各職種別教育ラダーレベル」に合わせた自己啓発目標を掲げ目標達成に向け学びを深めた。
- ・ 院外研修 175 名の参加を支援した。
- ・ 看護管理者研修（ファースト・サード）各 1 名受講終了した。
- ・ 里内におけるケアの連携と質向上を目的とし「里ケア会議」を定例化し、老人保健施設。在宅部門との交流研修を行った。

3) 人材の確保と定着に努める。

- ・ 県内外就職合同説明会 3 回参加、県内・外看護学校訪問を行い。県外看護学校 1 校、高等学校 2 校次年度就職説明会参加に繋がった。修学生県内 3 名の確保。
- ・ 日本看護協会主催による「WLB 推進事業」3 年目の継続参加。看護部取り組みから院内委員会として取り組み継続できた。
- ・ 職員動向

離職率	平均年齢	年間有休休暇取得
18.7%	40.1%	74.8%

4) 財務の向上、健全な経営へ参画し、病院経営に貢献する。

- ・看護部ミーティング毎日開催し各部署ヒト・モノ・カネの看護管理を確認する場を設けタイムリーな管理を行った。情報共有の場となり日々の応援体制もスムーズに行える体制が整った。
- ・各部病棟稼働率・在宅復帰率・在院日数

	急性期病床	地域包括 ケア病床 H27 年 10 月～ 13 床へ増床	回復期リハビ リテーション 病棟	医療 療養病棟	ホスピス
病棟稼働率	80.3%	101%	96.4%	97.3%	81.62%
在宅復帰率	83%	72.2%	84.5%	54.2%	23.25%
備考	平均在院 日数 18.3 日		重症者改善率 32.6%	医療区分 2・3 割合 79.4%	平均在院 日数 26.34 日

- ・院内合同病床ミーティングが定例化し、週単位での退院に合わせた受け入れ計画のもと、病床管理ができた。
- ・空床状況に合わせた紹介先へのアプローチをタイムリーにできるシステムとした。
- ・診療報酬の学びにより、各病棟の入院基本料・各種加算の算定要件の管理を実践した。
(2016 年 1 月より医療療養病棟 1 へランクアップできた)

【H28 年度の課題】

- ・「ナイチンゲール看護論」看護理論を継承しつつ看護記録システムの見直しに着手。
- ・病院、看護部理念の基、「地域包括ケアシステム」推進における病院の役割を職員一人ひとりが認識し看護・介護が提供できるよう体制整備と教育システム・マニュアルの充実を図る。
- ・健全な経営に貢献するため、平成 28 年・30 年(医療・介護同時)診療報酬改定と今後の政策動向についての知識を深め看護部の役割を果たす。
- ・認知症ケア推進、在宅療養支援課と各病棟配置の退院支援リンクナースの連携により在宅支援の充実を図る。
- ・WLB の推進活動を継続し「働きがいへ」の支援を強化し「看護専門職者としての人生に優しい職場づくり」を目指す。離職率・時間外の低下、有給消化率向上を目指す。
- ・看護要員確保活動を継続し、安定した人材確保が出来るようにする。
- ・キャリアパスシートの評価を行い、スタッフ育成支援していく。
新人教育の充実。
管理・認知・感染・緩和認定看護師研修参加、資格認定取得への支援を行う。
- ・看護管理者の育成を図る。

1 病棟

【スタッフ】

看護師	19 名（うち看護師長 1 名、主任 2 名）＜常勤 15 名、非常勤 4 名＞
准看護師	5 名 ＜常勤 4 名、非常勤 1 名＞
看護補助者	11 名 ＜常勤 9 名、非常勤 2 名＞
事務補助者	3 名 ＜常勤 3 名、非常勤 0 名＞

【目標】

1. 急性期から慢性期疾患の患者と向き合い全人的視点でケアを提供する
2. 一般病棟として経済性を考えた病棟運営を行う。
3. 医療安全・危機管理体制を整え、安全なケアを提供する。
4. 教育、自己啓発の支援を行い個々のスキルアップを実現する。

【活動報告】

- 1ー①病棟内で事例検討会をしながら、KOMI 理論に添った看護を考えながらケアに当たることができた。また、在宅支援を念頭に本人、家族の思いを傾聴し、チーム内で情報共有した。また、必要な患者を選択し、地域包括ケア病床への移行もスムーズにできた。
②認知症ケアとして昨年から計画していた院内デイケアを 10 月から開催することができた。それによって、患者の表情の変化、夜間の良眠、食欲アップにつながった。
③病状説明前に日常の様子やリハビリ状況をチーム間で共有した。
- 2ー①地域連携課、医事課、リハビリテーション科、医師事務と協働で定期的に会議を持って地域包括ケア病床は 100%の稼働維持ができ、算定要因もクリアした。
②一般病床は、8 月まで稼働は順調であったが、在院日数管理が甘く、7 月、8 月と 20 日を超えた。その反動として 9 月～11 月の稼働率低下につながった。
③他病棟の入院待機患者、レスパイトも積極的に受け入れた。
- 3ー①インシデント、アクシデント報告の振り返りを行うことができた。
②上記をもとに、ベッド、ベッド柵、マットレスのナンバリングを行った。また、全身麻酔、腰椎麻酔のオリエンテーション用紙の見直し、作成を行った。
- 4ー①院内、院外の研修を通して、個々のレベルに合わせたキャリア支援を行った。
②新人看護師教育を行うことで看護知識、技術に加え、時間管理、チーム間の協力等も出来るようになった。

【実績】

平成 26 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
一般病床稼働率	74.5	81	84.6	85.9	87.4	74.5	64.8	76.8	84.8
地域包括ケア病床	101.3	101.9	100.6	100	100	101.3	101.9	100.6	101.9
一般入院数	55	57	51	55	47	55	57	46	60
一般退院数	44	35	40	43	41	44	41	28	45
平均在院日数	18.5	18.9	18.2	20.4	21.1	20.5	17.7	16.9	16.9
看護必要度 (%)	24.0	20.0	20.5	19.7	25	21.2	23.2	14.3	17.1
平成 27 年	1 月	2 月	3 月	年間平均					
一般病床稼働率	79.0	83.6	87.4	80.3%					
地域包括ケア病床	101.2	100.7	101.4	101%					
一般入院数	59	51	48	53 人					
一般退院数	38	41	29	39 人					
平均在院日数	16.9	17.6	16.3	18.3 日					
看護必要度 (%)	16.4	20.2	13.6	19.6%					

【教育】

＊院内研修に加え、スタッフレベルに合った院外研修でスキルアップを行った。

病棟内研修 「認知症とせん妄の理解と対応」

「医療・看護必要度について理解を深める」

院外研修 「チーム医療における看護の役割」「共に学べる現場教育」

「目標達成するためのチームアプローチ」

「KOMI ケアセミナー」

「地域包括ケアシステムと他職種連携」 その他新人教育に関する研修

＊看護学生の臨地実習の受入れを行った。

【今後の課題】

1. キャリア開発支援のあり方（子育て中の職員、面談の持ち方）
2. 在宅支援における看護師の役割とチームケア
3. 院内デイケアの継続とケア評価（人員確保とケア内容の見直し）
4. 地域包括ケア病床 13 床の活用方法と一般病床の有効な稼働
5. 看護クランク業務の確立とそれに伴う業務改善

2 病棟

【スタッフ】

看護師	17 名（うち看護師長 1 名、主任 1 名）＜常勤 12 名、非常勤 5 名＞
准看護師	2 名 ＜常勤 0 名、非常勤 2 名＞
ケアワーカー	13 名（うち主任 1 名）＜常勤 13 名、非常勤 0 名＞
看護補助者	2 名 ＜常勤 2 名、非常勤 0 名＞

【目標】

- 1, 一人ひとりを尊重した質の高い看護、介護を提供する。
- 2, スタッフ全員で経済性を考慮した病棟運営を行う。
- 3, 医療安全、危機管理を行い安全と安心を確保する。
- 4, 個々の人間的成長と能力開発を支援し WLB を推進する。
- 5, 病院機能評価の受審に向け良質な医療、ケアの実践を行う。

【活動報告】

- 1, 毎月 2 回の事例検討会、成功事例の勉強会（前期後期）開催やカルテ監査を行いながらタイムリーにケアプランの立案修正に取り組むことができた。しかしレーダー・KOMI・グランドアセスメントとの連動は不十分である。認知症と高次脳機能障害の患者が増える中、豊郷病院への見学（3 名）、デイサロンの勉強会開催し 12 月からサロンを立ち上げ、対象患者の受け入れと日中の関わりに役立てた。NSCW で月の誕生会や季節毎のレクリエーションを行い患者家族に喜んで貰えた。今年度の看護研究を行うことでリハビリと連携し、一人ひとりを尊重した個別性を重視するような関わりで退院支援ができた。【重症比率 31%（20%以上）・改善率 80.4%（30%以上）
在宅復帰率 84.5%（60%以上）】
- 2, 看護助手事務クランク配置で退院や他科受診の書類、外出泊の手続き検査の指示受け等の業務改善ができ、ヒト、モノ、カネで多くの業務効率が図れた。W カンファレンスや回復期判定会議、病院病床ミーティングで 1 病棟入院、待機してもらうことで医療センターでの待機期間短縮、病棟を空床無く運営することができた。（平均稼働率 96.4%）
- 3, インシデント 142 件（昨年 156 件）・アクシデント 22 件（昨年 35 件）事例は迅速に振り返り再発防止に取り組んだ。また普段からの報連相を徹底し苦情に繋がる内容は瞬時に状況確認対応を行う。病院の協力を得ながら物品の購入、人員の確保で職員と患者の安全確保に取り組んだ。苦情・倫理的カンファレンスを行い全人的ケアの視点で検討できた。

- 4, 中期面談はすべて行ったが KOMI・教育ラダーに沿った支援ができなかった。今年度は新人 CW・NS を受け入れ毎月のリーダー会で PDCA サイクルを回し継続的改善に繋げた。詰所会で周知徹底し共に育っていく姿勢で取り組んだ。
- 5, 2 病棟実務マニュアルの一部は随時見直しが出来たが、病院看護部マニュアルとすり合わせも必要で実用性は乏しかった。

【実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
平均年齢 (男女)	77・74	69・77	77・74	72・83	77・74	77・74
入院入棟数	10	19	18	19	20	16
退院転棟数	9	21	16	17	21	17
稼働率	98.4	96.7	99.1	100	99.1	96.5
在宅復帰率	100	88	77	81	85	90
在院日数	109	84.9	90.8	91	85	96.5
重症者改善率	20	42	28	19	35	35
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均年齢 (男女)	77・74	74・81	70・81	77・74	77・74	79・83
入院入棟数	19	20	21	16	24	19
退院転棟数	20	19	12	18	20	17
稼働率	99.1	95.4	99	100	80.7	99.8
在宅復帰率	90	71	88	85	80	77
在院日数	80	73	77	88.4	80.7	84.4
重症者改善率	35	30	41	23	58	25

【教育】

院外研修

- ・看護研究スキルアップ
- ・看護倫理～ジェネラリストの倫理的意志決定を支援する～
- ・病院から在宅への看護職の果たす役割 在宅医療連携拠点事業から学ぶ
- ・回復期リハビリテーション病棟学会

地域包括ケアシステムにおける回復期リハビリテーション病棟

- ・褥瘡対策に生かすポジショニングの基礎講座
- ・目標達成するためのチームアプローチ
- ・実習指導者講習会
- ・看護提供体制の見直しと看護補助者活用推進
- ・変革の時代を生きる看護の創造

看護研究

リハビリを見に行こう

～リハビリ病棟スタッフとしての役割意識の変化に向けて～

実習

近江八幡看護学校 年5回

【今後の課題】

- 1, KOMI 記録システムを効率化し患者にとっての良質なケアの実践に取り組む。
回復期リハビリテーション病棟として、地域や学会等での発表と他施設との交流を持つことで多角的な視点での学びに取り組んで行く。
- 2, 安定した病床利用率の維持と退院支援の強化。
- 3, インシデントのレベル2, 3以上の件数把握しアクシデントを少なくする。
- 4, 師長会、主任会、各種委員会と連携しKOMI ラダー、教育ラダーに取り組む。
- 5, マニュアル類の整備に取り組む。

3 病棟

【スタッフ】

看護師	17 名（うち看護師長 1 名、主任 2 名）＜常勤 12 名、非常勤 5 名＞
准看護師	3 名 ＜常勤 2 名、非常勤 1 名＞
ケアワーカー	15 名（うち主任 1 名）＜常勤 12 名、非常勤 3 名＞
看護助手	7 名 ＜常勤 5 名、非常勤 2 名＞

【目標】

- 1、患者・家族に寄り添い、その人らしさを支える看護、介護を提供する。
- 2、危機意識の向上、感染管理の充実をはかり安全で安心できるケアを提供する。
- 3、新人、現任教育が充実し、スタッフそれぞれのレベルアップ支援ができる。
- 4、ワークライフバランスを推進し、働きやすい思いやりのチーム作りに参加できる。
- 5、医療療養病棟として病院、地域の役割を果たし経済性を考えた病棟運営に貢献する。

【活動報告】

- ・今年 1 月より入院基本料 1 へ変更することができた。医療区分の意識を高めるため、医療区分の勉強会を持ち、日々の区分の変化に対応出来るような記録の工夫を考えていった。変更に当たって、地域連携課とも話し合いの場を持って、意見交換をし、医療療養病棟のあり方などを話せた。業務調整として KJ 法で業務改善を行い、夜間のオムツ交換の時間帯を変更した。
- ・処置室を作り、状態悪化の患者さんや看取りの患者さんが落ち着いた環境の中で過ごせる様にした。
- ・面談の充実を図り家族との信頼関係にも繋がり、退院支援にも繋がるケースもできた。
- ・今年度は毎月のレクリエーションの充実がはかれ、院外レクリエーションの実施ができた。
- ・休日の前残業に対して、点滴の混合注射を薬局に協力を得たが、人数的な面で難しく、休日の勤務体制をNS2.5 人から 3.5 人に変更し、改善を図った。
- ・看護事務補助者の業務の作成ができた。

【実績】

①今年度稼働率、平均患者数、医療区分2.3割合、在宅復帰率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	57人	57人	58人	59人	59人	59人	59人	59人	58人	58人	59人	59人
稼働率	95%	95%	97%	98%	98%	98%	98%	98%	97%	97%	98%	98%
医療区分	75%	77%	78%	76%	69%	79%	82%	80%	83%	84%	82%	88%
在宅復帰率	75%	100%	100%	100%	50%	25%	0%	100%	0%	0%	50%	50%

患者数平均 58.4 人 稼働率 97.3% 医療区分 2, 3 割合 79.4% 在宅復帰率 54.2%

- ・平均患者数としては、目標達成できた。処置室が出来たことで、環境が整い、稼働率上昇の結果に繋がった。
- ・医療区分は平均すると 79.4%であった。昨年と比較して 12%も上昇している。80%には達成出来なかったが、後半はクリア出来ている。区分の変化に伴いCVの患者さん、吸引の患者さんが増えた。それに伴って感染の患者さんも増えた。
- ・直近 6 ヶ月の在宅復帰率は 33.3%であった。在宅復帰機能強化加算はとれなかった。在宅復帰率を上昇させるには、療養病棟をうまく利用して頂くレスパイト入院を増やしたい。
- ・退院区分 死亡 65% 在宅 18% 転院 11% 施設 6%

②インシデント、アクシデント件数 … インシデント 206 件 アクシデント 95 件

- ・スピーディーなカンファレンス、優先順位を考えてのカンファレンスができた。
- ・項目としては療養上の世話、治療処置、薬剤関係のインシデントが主であった。そのうち転倒転落、表皮剥離が多かった。

【教育】

① 病棟勉強会

- ・オンライン講義「高齢者の理解と転倒転落予防」「経管栄養のチューブ管理」
- ・医療区分について ・急変時の対応 ・糖尿病について
- ・災害時の対応（救護区分や消火栓について）9月食事について体験学習

② 研究 テーマ「療養病棟における受け持ちスタッフの定期面談に対する意識調査」

③ 研修「プロセプターシップ」「看護倫理」「未来を支える看護の力」「地域包括ケアシステムにおける看護の役割」「WLB 推進にと実現に向けて」「目標達成するためのチームアプローチ」「新人研修」「褥瘡知識と予防介入」「職場で活かすコミュニケーションスキル」「ファーストステップ研修」「実力をつける排泄ケア」「拘縮予防」

④ 実習 近江八幡市立看護学校

【今後の課題】

- ・入院基本料 1 へ変更にあたり、医療区分 80%の維持。スタッフの医療区分の意識を高め、日々の変化に対応できるようにする。診療報酬改訂にあたって、確実な医療区分がとれるようなシステム作り。（うつ、酸素など）区分の根拠付けた記録。業務改善。
- ・稼働率の維持、達成、処置室を利用し 60 床を稼働させる。
- ・在宅復帰強化加算をとれるような、仕組みや流れをつかんでいく。（院内外の連携強化）
- ・区分 1 の方の方向性について病院、里での話合いの場で現状を伝えていく。
- ・療養での看取りも多く、死亡退院が退院の 65%である。現在の看護体制の中での看取りを振り返りながら、療養での看取りを考えていく必要性も感じる。
- ・医療療養病棟でのケアの充実（体験勉強会）、定期面談を定着、評価。
- ・働きやすい環境作り。新人教育。
- ・災害時の対応についての勉強会の実施。
- ・CV、吸引などの処置も多く、感染管理をしっかり行っていく。

緩和ケア病棟

【スタッフ】

看護師	16名（うち看護師長1名、主任1名）＜常勤14名、非常勤2名＞
緩和ケア准看護師	1名 ＜常勤1名、非常勤0名＞
ケアワーカー	4名 ＜常勤4名、非常勤0名＞
看護助手	2名 ＜常勤2名、非常勤0名＞

【目標】

- 1) チームケアの充実を図り全人的ケアを提供する。
- 2) システムの評価・修正を速やかに行い、稼働率維持を考えたホスピス運営を行う。
- 3) 危機管理体制を徹底し、安心・安全なケアを提供する。
- 4) ストレスマネジメント能力の向上を図り、自己啓発の支援を行う。
- 5) 病院機能評価付加受審で得た課題に取り組み、ケアの維持向上を目指す。

【活動報告】

- ・ 緩和ケア認定看護師がELNEC-J指導者として院外にて活動開始。院内では認定看護師の介入により診療報酬の算定できることを、システム構築し活動開始した。
- ・ ドキュメンタリー映画「いのちがいちばん輝く日—あるホスピス病棟の40日—」の上映にて啓発活動を継続中。
- ・ 八幡医療センターで細井医師にて院外コンサル継続中。(1回/週)
- ・ リレーフォーライフジャパン滋賀のウォークに看護師2名、ケアワーカー1名が参加協力した。
- ・ 研修受け入れ
 - 豊郷准看護学院 13名 2日間
 - 滋賀医科大学 6回生 2名 3週間
 - 関西学院大学人間学部 4回生 1名 2週間
 - 近江八幡市立看護専門学校 3年生 40名
 - 滋賀県立大学人間看護学部 20名 2週間
 - 草津看護専門学校教員 1名
 - 富山県看護協会緩和ケア認定看護師教育課程 2名 3週間

【実績】

- ・ 外来数：526 名（初診 189 名、再診 337 名）
- ・ 相談件数：28 件
- ・ 見学者数：12 名
- ・ 遺族会：偲ぶ会 2 回/年（延べ 30 家族、53 名参加）、ライラックの日 18 名参加
- ・ インシデント件数：81 件、アクシデント件数：48 件
- ・ 在宅看取り：1 件
- ・ ホスピス通信：1 回/年発行

	入院	退院	稼働率	コンサル	転入	在院日数	在宅率
4 月	10	17	81.88	3	2	23.12	12
5 月	14	11	76.01	1	1	23.58	15
6 月	13	17	90.0	4	7	22.51	29
7 月	12	17	90.73	3	3	23.83	18
8 月	15	12	90.93	1	0	25.46	25
9 月	7	11	88.54	2	3	25.45	23
10 月	13	17	82.66	4	1	31.39	12
11 月	15	17	69.79	2	2	27.21	29
12 月	13	14	63.91	4	1	25.89	36
1 月	12	12	70.56	2	1	26.93	33
2 月	10	12	91.81	4	4	28.1	33
3 月	12	14	82.63	5	1	32.58	14
平均	12.16	14.25	81.62	2.92	2.17	26.34	23.25

【教育】

- ・ 京滋緩和ケア研究会：2 回/年 延べ 7 名参加
- ・ 第 39 回日本死の臨床研究会年次大会：2 名参加（発表：ポスター1 例）
- ・ 日本ホスピス緩和ケア協会年次大会：3 名参加
- ・ E L N E C－J 受講修了者：4 名
- ・ 院外研修参加数：延べ 53 名

【今後の課題】

- ・ 目標稼働率達成に向けて院内外での連携を強化する。
- ・ ホスピスボランティア活動の推進と活動におけるコーディネートを強化する。
- ・ デイホスピスの企画において病院との検討が進まず、具体的な推進計画を立案する。
- ・ 日本緩和ケア協会で目標とされている P C U スタッフ半数以上の E L N E C－J 受講修了の推進。

外 来 部 門

外来部門

【スタッフ】

看護師 10 名（うち師長 1 名、主任 1 名）＜常勤 3 名、非常勤 7 名＞

准看護師 1 名 ＜常勤 0 名、非常勤 1 名＞

看護助手 1 名 ＜常勤 0 名、非常勤 1 名＞

【目標】

- ① 患者・家族が在宅で活用できるケアを提案・提供し、看護の質の向上に努める。
- ② 安全・安心なケアを提供し、医療事故防止に努める。
- ③ 他部署との連携を図り、病院経営に参画する。
- ④ 個々の自己啓発・自己成長を支援し、スタッフの育成に努める。

【活動報告】

- ・ 5/11～外来中央業務を医事課が行う。中央業務を医事課に移行したことで、外来看護師はタイムリーに診察時の介助・処置・検査説明ができ、待ち時間などの短縮につながっている。また、急な出来事でもすぐに対応ができています。
- ・ 7/21～健診採血室は 7 診へ、7 診は旧看護師当直室へ移動し開始となる。
- ・ 手術室：リネン類が古くなった為、7/28～トーカイ業者が扱っているネクサージ（手術用リネンリユースシステム）使用開始となる。
- ・ 10 月～緩和ケア外来の診察時間が午前になり、健診業務の改善を行い外来業務にかかわっている。
- ・ 職員のインフルエンザワクチン接種、11 月 9 日・10 日・16 日に施行。
- ・ 企業インフルエンザワクチン接種、10 月 28 日・11 月 4 日～12 月 1 日施行。
- ・ 35 才未満対象、職員健診採血が 2 月 23 日・24 日・26 日に施行。
- ・ 各部署の退院前カンファレンス参加件数：2015 年 5 月～2016 年 3 月、11 件。
(1 病棟・7 件、ホスピス・3 件、3 病棟・1 件)

【実績】

- ・H27 年 4 月～H28 年 3 月までの手術件数・術前・術後訪問件数

手術件数	術前訪問件数	術後訪問件数
69 件（局麻含む）	68 件	26 件（38％）
H27 年 4 月～H28 年 3 月の手術件数： 81 件		

- ・H27 年 4 月～H28 年 3 月までの内視鏡室各検査件数（年間集計）

腹部超音波	胃カメラ	大腸カメラ
1369 件	1057 件	169 件

- ・インシデント、アクシデント年間集計（H27 年 4 月～H28 年 3 月）

インシデント 37 件、 アクシデント 0 件

【教育】

- ・院外研修への参加もあり、「内視鏡検査介助について」「オムツの当て方」「移乗の介助」「病院から在宅への関わり」「褥瘡対策に活かすポジショニングの基礎講座」など、伝達講習ができた。

【今後の課題】

- ・外来（待合いを含めた）の業務改善。（業務配置、環境面など）
- ・外来継続看護の充実。（安心して外来通院、在宅療養支援できるように、医師・病棟スタッフ・地域医療課・在宅療養支援課・訪問看護などの連携を図り、チームとして関わっていく。）
- ・（新）外来問診票の活用。
- ・中材業務の見直しと、術後訪問の見直し。

事務部

【H27 年度活動計画及び実績】

1. 地域・顧客満足の得られる事業展開・運営を目指す。
従来以上に地域ニーズにきめ細かく対応できる態勢構築に注力。毎週火曜日の定例会議では、院内各部門間で入退院調整情報を共有。患者目線の接遇面でも、期待を上回る対応を心掛けた。
2. 法令遵守徹底と公正な企業風土確立・組織改革の尖兵となり、病院舵取りの先導役を果たす。
外部監査委員会における財務・労務・人事面での課題提起・改善推進、人としてあるべき姿、組織強化に向けた意見具申に努めた。
3. 事業計画・予算達成に向け、健全な病院経営の徹底。
予算進捗状況の院内情報共有化と課題克服に注力し、3 期ぶりに病院単体での黒字を確保できた。
4. 診療報酬届出・管理態勢の緻密度・精度向上を図る。
チェック・考働態勢の見直しで精度強化。また近畿厚生局への各種届出時には、事前に部長会での説明・質疑を経て提出する体制を作った。
5. 当院の役割（機能）を充実させ、地域連携業務の推進を継続する。
地域病院・施設・開業医との緊密な連携と情報収集を図り、院内へフィードバック。また『三方よし』を始め、各地域での地域連携会議に積極的に参加。在宅患者安心カード及び近隣開業医の長期休暇時の連携態勢の企画・立案から運用、近隣開業医との情報交換会の実施等を主導した。
6. 職員の心身サポートで覇気・士気を高め、安心を提供できる環境整備に努める。
WLB・メンタルヘルス事業の継続推進、人事評価制度見直し等にもイニシアチブを取って関与した。
7. システム管理・セキュリティを整備し、電子カルテ・IT ネットワークのバージョンアップも視野に入れつつ、情報管理分野を充実させる。
WSUSサーバの導入、ウィルスソフトのほぼすべてのPCに展開等、セキュリティーレベルの向上に寄与。また、電子カルテ更新の準備にも着手している。

【H28 年度の課題】

1. あらゆる面で、法令遵守態勢を主導しつつ、(株)プリオHと連携し、経営改善プロジェクトを成功裏に導く。また、平成 28 年度の診療報酬改定を病院の方向性・方針決定に反映させる為の情報収集に努め、速やかに申請・届出に繋げる。
2. 財務面での正念場と認識し、事業計画・予算達成に全力を傾注し、計画的・効率的な設備投資を順次実施していく。
3. 中北部地域包括支援センター、看護小規模多機能居宅介護等、新事業の積極的関与に努める。

医事課

【スタッフ】

常勤 10 名 非常勤 6 名

【目標】

< 医事課 >

- ① 「医業はサービスである」事を常に自覚し、患者サービスの向上を目指し、高度な医療サービスを提供する。
- ② 医事課職員の専門知識の向上と業務に必要な情報収集に努め、病院経営に繋がる情報や資料提供を行う。
- ③ 保険制度の変更や診療報酬改定への対応。適切な進歩管理、院内他部門との連携強化等により、適正かつ公正な診療報酬の請求を行う。
- ④ 日常業務の請求業務に力を入れ、業務の効率化・レセプト期間中の残業削減とともに、算定漏れの防止に努める。
- ⑤ 未収金の管理、催促及び徴収に努める。

< 健診室 >

- ① 売上予算実績の 5,174 万円を達成する。
- ② 健診運営の安定化・平均化を図る。
- ③ 新規開拓を計画し、実施する。
- ④ 健診が円滑に進める仕組みの見直し。
- ⑤ 各 2 次検診・検査の促進運用の明確化を図る。
- ⑥ 消費税増税分による価格の見直し。
- ⑦ 職員の能力アップを図る。

【活動報告】

<医事課>

- ① 今後算定可能な項目がある診療報酬において、算定要件を満たすよう各部門と協力し算定した。
- ② レセプト請求業務は、医療事務の質を評価する上で、レセプトの「査定」「返戻」の数値は重要です。電子カルテが導入により、病名漏れや旧保険証にての請求で査定や返戻がありました。査定・減点を減少することを目標に、日々病名チェックの強化を図った。

また、毎月1回減点・査定減・返戻された内容を医局会に報告、医事課内でも毎月担当を決め報告・検討し、スキル向上を目指した。

<健診室>

- ① 受診者単価率のUPが出来るように、オプションの促進活動を行った。
- ② 繁忙期の受診月変更交渉を行い、閑散期への受診変更を勧め、健診受診0日を無くした。

【実績】

<医事課>

・ 減点 (円)

4 月	66,750
5 月	82,590
6 月	94,790
7 月	96,830
8 月	122,890
9 月	171,060
10 月	141,190
11 月	157,020
12 月	210,010
1 月	100,980
2 月	103,230
3 月	168,100

<健診室>

- ・ 売上実績 ¥56,512,332 予算の 5,180 万円より¥4,712,332 の増収
受診人数も前年度より 57 名の増加

【教育】

研修

- 内容 「身近な接遇」 近江八幡市立総合医療センター
「未収金対策」 高島市市民病院
「2016 年診療報酬改定について」 大阪
「平成 28 年度診療報酬改定の方向性」 コラボしが 21
医事管理者のための「数字力」養成講座 大阪
「平成 28 年診療報酬改定説明会」 神戸

【今後の課題】

< 医事課 >

- ① 診療報酬の算定漏れがないよう、電子カルテとのマスタの紐付け等や無駄な病院持ち出し分を減らす対策を、他部門との連携を図るなど課題があり、今後も継続する。
- ② 月 1 回の減点・返戻報告と勉強会を行い、職員の知識向上を実施する。
- ③ 未収金に関しては定期的に患者さんに連絡をとり、回収率の向上を目指す。今後も継続して病院経営の収入が増えるよう、未収金対策について検討する。

< 健診室 >

- ① 消費税増税分による価格を見直し、地域との価格調整を行う。
- ② 企業、健保の新規開拓案を考え、実施する。
- ③ 二次健診の受診者を増やすため、結果表と一緒に外来担当医表を付けるようにする。

管理課

【スタッフ】

- ① 平成 28 年 3 月末時点で、常勤職員 7 名、非常勤職員 5 名。
- ② 平成 27 年度内に常勤職員 2 名退職。1 名入職。非常勤職員 2 名退職。1 名入職。

【目標】 ～ Positive Thinking ～

- ① ヴォーリス記念病院の職員たる原点回帰と基本理念の実践。礼拝・ボランティア活動への積極参加。仕事は指示を待つだけでなく、積極的に自分から働き掛けていく。
- ② 『4S』＝ 整理・整頓・整然・清潔をモットーとし、院内全体の設備・備品・環境整備に注力。利用者に満足度の高い快適な療養環境を提供する。
- ③ 病院を支える屋台骨であることを認識し、誇りを持って仕事に取り組む。院内職員が快適に安心して働ける環境作り、“聖域”を設けず経費削減を行い、事業計画・予算達成に寄与する。
- ④ 常に問題意識を持って新しい発想、別角度から考察する習慣作りをする。今が『ベスト』ではなく、今は『ベター』だということを意識する。現状打破をする。現状維持は『現状後退』。

【活動報告】

- ① 一般経費では、水道光熱費の高騰は如何ともしがたく、前年対比 3,010 千円 (7.5%) 増。エネルギー関係では空調設備の抜本的省エネ機器の導入により年間コスト前年対比 15,196 千円 (47%) 減。光熱費削減の具現化を図ることができた。一方 物品在庫管理は、不斷の努力が奏功、単月ベースで全月前年対比圧縮が図れた。(実績①、②、③を参照)
- ② 平成 27 年 4 月より保育所の外部委託を開始。保護者が安心して職務に遂行できるよう直営からのスムーズな移行・運営を開始することができた。院内保育所を外部委託に変更したことで 4,355 千円の経費削減を実施することができた。(実績④を参照)
- ③ 職場環境改善に資するために必要な、就業規則の改定を継続的に実施。
- ④ 院内各種システムのセキュリティ強化の観点から、職員のパスワードの更新を実施した。今後も 6 ヶ月毎に定例的に行う。
- ⑤ 平成 28 年 1 月より導入されたマイナンバー制度について、全職員対象に説明会を実施。制度に関する研修・セミナー参加で的確な情報収集に努め、啓発やセキュリティ一管理面を含め間違いなき内部管理態勢を構築する。

【実績】

①一般経費関係

(単位：円)

科目(経費)	平成26年度	平成27年度	増 減
職員被服費	2,037,839	2,269,804	231,965
通信運搬費	4,190,411	4,366,951	176,540
消耗品費	16,705,483	14,445,374	▲2,260,109
消耗器具備品費	9,345,548	5,736,679	▲3,608,869
水道光熱費	37,444,348	40,454,654	3,010,306
事務・図書印刷費	196,621	148,500	▲48,121
燃料費	29,117,041	13,921,010	▲15,196,031
修繕費	9,832,995	12,206,925	2,373,930
雑費	6,357,423	6,920,408	562,985
自動車費	976,076	603,462	▲372,614
器械賃借料	10,019,386	11,022,108	1,002,722
合 計	126,223,171	112,095,875	▲14,127,296

②エネルギー関係

	平成26年度		平成27年度	
	使用量	金額 (円)	使用量	金額 (円)
電気 (病院本体)	1,614,629 (kwh)	32,268,276	1,806,149 (kwh)	35,993,107
上水道	17,425 (m³)	4,251,581	16,666 (m³)	4,086,637
下水道	7,280 (m³)	1,347,256	8,093 (m³)	1,510,380
灯油	276,000 (L)	22,834,864	130,000 (L)	8,074,080
L P G (ホスピス)	18,655 (m³)	5,137,727	17,152 (m³)	4,587,804
L P G (栄養科)	3,587 (m³)	1,043,543	3,481 (m³)	1,014,937
合 計		66,883,247		55,266,945

③ SPD 在庫推移

(単位:千円)

	27/4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
SPD 倉庫在庫合計	2,581	2,660	2,334	2,393	2,254	2,686
前年対比	196	▲264	▲409	▲300	▲354	▲223
部署在庫合計	3,567	3,846	3,747	3,768	3,692	3,780
前年対比	▲287	85	▲30	▲8	▲90	▲45
合 計	6,149	6,507	6,082	6,162	5,946	6,467
前年対比	▲91	▲179	▲440	▲308	▲444	▲268
	27/10 月	11 月	12 月	28/1 月	2 月	3 月
SPD 倉庫在庫合計	2,383	2,606	2,905	2,605	2,232	2,286
前年対比	▲547	▲238	▲314	▲267	▲57	▲483
部署在庫合計	3,802	3,545	3,566	3,667	3,587	3,467
前年対比	11	▲239	▲409	▲97	▲179	▲299
合 計	6,185	6,152	6,472	6,273	5,816	5,753
	▲535	▲478	▲724	▲365	▲237	▲782

④ 院内保育所における経費

(円)

	27/4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
支払額	1,336,511	1,369,094	1,411,275	1,331,717	1,338,898	1,368,820
	27/10 月	11 月	12 月	28/1 月	2 月	3 月
支払額	1,166,918	1,447,435	1,450,803	1,506,369	1,578,891	998,350

(円)

	平成 25 年度	平成 27 年度	増減
年間支出合計	18,323,736	16,305,081	▲2,018,655
補助金計	▲1,554,000	▲2,634,000	1,080,000
年間保育料	▲1,522,500	▲2,778,850	1,256,350
差引	15,247,236	10,892,231	▲4,355,005

※補助金が大幅に増えているのは夜間保育の加算分です。

年間保育料 平成 26 年 4 月～ 保育料改定 500 円 ⇒ 1,000 円

自主運営時の経費と比較し、約 300 万円の経費を削減することができ、保育料改定で 125 万円の削減につながった。結果、保育所運営に係る総コストは 4,355 千円の圧縮を図れたことになった。

【教育】

省エネ・防災・設備機器・財務経理等を中心に、研修やセミナーに参加した。

【今後の課題】

- ① 借入金返済原資捻出及び賃金・設備投資の安定的原資確保、また次期投資の着実な履行により、職員が安心して働ける勤務職場環境の創出のため、引続き安定的財務基盤の構築を目指す。
- ② 各部署のユニフォームの新調（レンタル化へのスムーズな移行を図る）。
- ③ 正確な出退勤の把握、事務作業の効率化に向けた勤怠管理システムの導入。
- ④ 建物の劣化に伴う本館外壁の塗装、及び屋上防水加工処理の整備。
- ⑤ 看護小規模多機能型居宅介護の来年度運用に向けての準備及び駐車場の整備等。

地域連携課

【スタッフ】

MSW 4名

病診連携事務 1名

【目標】

2025 年を迎えるにあたり、地域医療構想に基づき、地域包括ケアシステムの構築が求められている。地域連携に関しての院内・院外における活動の幅が広がっている。当院における地域での立ち位置を明確にし、地域医療構築に向け地域連携課の拡充を行い、院内外における連携強化を図りたい。病院事業計画に基づいた施設基準の見直しに対応できるよう努める。地域に向け病院機能の周知、地域とのリンクができるよう活動の幅を広げる。

患者満足の高い退院支援が行えるようチーム医療の一員として役割を果たす。

病診連携に関しても地域ニーズを把握し、ニーズに応じた活動を行う。

【活動報告】

- ① 地域包括ケア病床、回復期リハビリ病棟、療養病棟などの包括病棟における入退院調整を行う。目標稼働率に貢献できるようベッドコントローラー・病棟と連携する。
 - ・ 各スタッフが目標稼働率を意識し、入退院調整を行う事ができている。
 - ・ 今年度より毎週火曜日午前に院長、看護部長、薬局長、各病棟師長、地域連携課スタッフとの会議を定例化し各病棟での入退院情報を確認し、スムーズなベッドコントロールができた。
- ② MSWとしての相談業務を通じて、患者・家族への支援を行う。
 - ・ 各MSWが患者支援のために、対応できている。退院アンケートでもMSWの対応に対する評価は高かった。
- ③ 地域におけるニーズの発掘と連携機能の充実を図る。
 - ・ 病院協会での退院支援事業、三方よし研究会、つながりネットなど地域や病院や施設とも連絡を取り合い情報交換ができている。得た情報を院内に提供していく事もできた。
- ④ 先方病院への支援を強化する。
 - ・ 近江八幡市立総合医療センターとの連携を引き続き行なう。定期訪問と週3回の空床報告を継続する。

⑤ 診療報酬伴う対応に関して。

- ・ 地域連携課として算定できる項目（退院支援加算や介護支援連携指導料など）に関しては算定漏れの無いよう意識している。介護支援連携指導料に関しては算定していけるよう意識していくことが必要である。

⑥ 病診連携機能の充実

- ・ 開業医との連携に関してはスムーズな検査・診察調整を行う事ができている。ヴォーリズ記念病院との有益な連携が図れるよう情報収集に努めていく。
- ・ びわこネットに関しては導入が促進され、対応件数が増えている。あさがおネットに関しては、運用は未定である。システムの運用に関しては、院内での運用方法の検討が必要である。

【実績】

27 年実績	入院患者数	全体入院割合	退院支援計画書 作成数	介護支援連携 計画書
4 月	20	27.02%	46	7
5 月	31	35.22%	54	1
6 月	35	44.87%	40	2
7 月	36	46.15%	42	1
8 月	26	33.76%	49	4
9 月	26	36.11%	42	3
10 月	33	37.07%	50	6
11 月	28	35.44%	44	4
12 月	33	39.75%	44	5
1 月	25	30.12%	53	2
2 月	30	36.14%	40	1
3 月	23	29.11%	48	5

【教育】

自己研鑽を行い連携と相談業務の質を高める。

- ・ 研修会の参加を行い自己研鑽に努めた。
- ・ 症例発表や学会発表などに関しては、取り組んでいく余裕がなかった。
- ・ 資格取得を行い各自のスキルアップに努めることも継続していく課題である。

【今後の課題】

地域連携課での中心業務となるMSW業務に関しては、院内での包括病棟稼動目標を意識して各スタッフが病棟と協力し入退院調整を行うことができている。

今年度より毎週1回、院長、看護部長、薬局長、各病棟師長、地域連携課スタッフとの会議を定例化し各病棟での入退院情報を確認し、スムーズなベッドコントロールができた。他院からの紹介に関しては、近江八幡市立総合医療センターを中心として東近江圏域やそれ以外の地域からもある。

地域医療の充実を図るため、近江八幡市立総合医療センターとの連携に関しては特に重要になる。2025年を迎えるにあたり、地域医療構想に基づき、地域包括ケアシステムの構築が求められている。当院における地域での立ち位置を明確にし、地域医療構築に向け、院内外における連携強化を図りたい。今後の東近江医療圏域での病床編成があり、地域に向けどのような医療が展開できるかを確認し、方向性に基づいた連携が行えるよう努力したい。

病床機能の分化・強化・連携や医療・介護の一体的な基盤整備など質の高い人材確保があるとされており、圏域の適正病床数を審議し病床削減ではないと説明されているが、ベッド数削減が必要とされる可能性が大きく、私立病院においてはベッド数削減による収益の減少により病院経営にマイナスとなる側面が拭えない。

当院においても、今後の経営に大きく影響することが予想され対応が必要であると感じている。東近江医療圏における当院の立ち位置をより明確化し、里としての機能を活かし最大下発揮できる体制作りが必要であると考えている。

地域ニーズをとらえ病院機能と連動させていく、いち早く自院の位置づけを確保していく必要がある。

企画渉外課

【スタッフ】

常勤職員 2 名 内 1 名 1/末日で退職。 非常勤職員 1 名。

【目標】

- ・ 地域・顧客満足の得られる事業展開、運営の企画・立案を行う。
- ・ 法令順守のもと法定人員・要員の確保を計画的に行う。
- ・ 職員の定着率（満足度）を高める企画・立案を行う。
- ・ 開院 100 周年記念事業、ヴォーリズ健やかフェスタの企画・立案を行う。
- ・ 開業医との連携の充実・推進を図るための連携部署に関わり成果を出す。
- ・ 広報活動に際し、病院及び里の主となる企画・立案を行う。

【活動報告】

- ・ 地域包括ケア病床の増床（5 床→13 床）、療養病棟入院基本料のⅡ→Ⅰへのランクアップに伴う申請・届け出関係を行った。
- ・ 要員確保に向け業者タイアップ型の求人サイトの更新。リクルート活動を精力的に行い病院見学会を開催した。
- ・ WLB 推進委員会とタイアップし、看護協会主催のフォローアップワークショップへの参加、及び院内の WLB への取り組みを行った。
- ・ 2 回目となる健やかフェスタへの取り組み。
- ・ 地域医療懇談会の開催（地域の開業医との懇談会）、安心カード、長期休暇時の往診対応等地域の開業医との連携の充実・推進のため関連各部署と連携をとって取り組んだ。
- ・ スマートフォン版ホームページの開設。

【実績】

- ・ 7/9（木）医療懇談会の開催。（参加開業医 7 件）
- ・ 8/9（日）病院見学会の実施。（参加者 6 名）
- ・ 10/25（日）「ヴォーリズ健やかフェスタ」の開催。
- ・ 平成 27 年度「出前講座」の実施（7 回 各市町村の自治会等）参加者：182 名
- ・ リクルート活動
〈県内訪問〉
 - ・ 高等学校 10 校
 - ・ 専門学校 3 校

〈県外訪問〉

- ・大阪、京都 6校（専門学校 5校、大学 1校）
- ・九州（鹿児島県、高等学校 1校、専門学校 3校）
（熊本県、高等学校 1校、専門学校 3校）
（大分県、高等学校 1校）
- ・沖縄（高等学校 14校、専門学校 5校）
- ・四国（大学 1校）
- ・修学金説明会 県内専門学校 3校
- ・就職フェア説明会
京都会場（50名）鹿児島会場（8名）福岡会場（54名）沖縄会場（45名）

修学金利用者→2名（近江八幡市立看護専門学校1名、華頂看護専門学校1名）

病院見学会実施時訪問者→6名（本年度卒業予定者2名、高校生4名）

学校訪問から就職に繋がったケース→看護クランク1名内定

（京都栄養医療専門学校、大原学園）

就職フェアから就職につながったケース→1名

（社会福祉協議会）

【教育】

- ・新規入職者、途中入職者に対し、人事制度の説明を行い、趣旨を浸透させた。
- ・前年度までの人事評価シートから様式変更を行い、簡素化を行った。

【今後の課題】

- ・引き続き、各種医療情報の収集及び提案する基盤となる課の立ち位置を再確認し、業務の整備を進める。
- ・次世代に向けての人材確保及び教育。計画に基づいたリクルート活動を行い、要員確保に向けて中長期のリクルート計画表を作成し遂行していかなければならない。
- ・WLBの推進、メンタルヘルス事業、人事評価制度の見直し等、内部顧客の支援に対し、積極的に取り組んでいく。

システム室

【スタッフ】

常勤 1名

【目標】

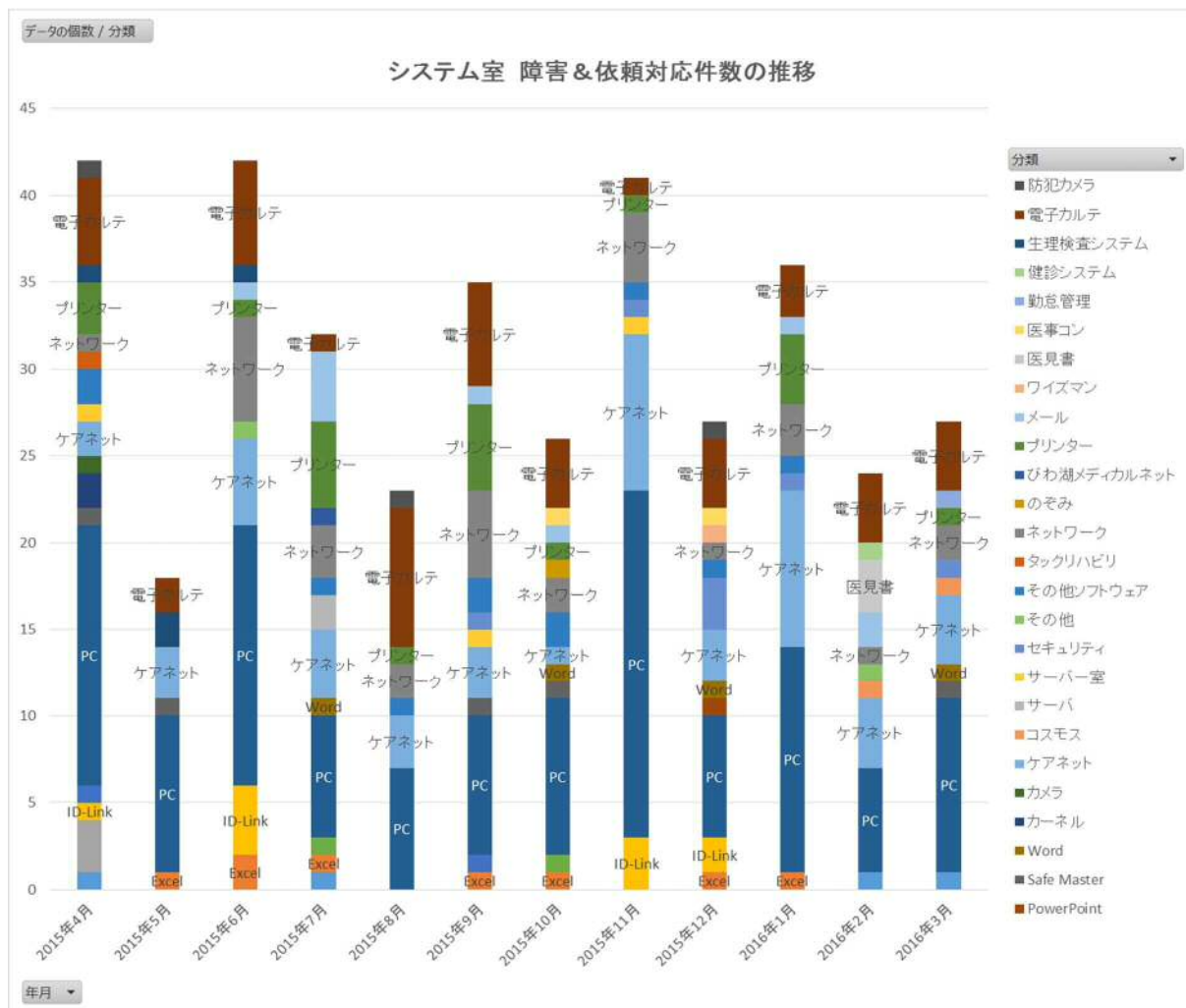
- ① 病院組織の業務プロセスの効率化を図るために、情報システムを駆使した業務改善を促進する。
- ② 情報システムに関する知識や技能のレベルアップを図るために、職員へのシステム関連情報の配信を積極的に進めていく。
- ③ 院内の情報システム・ツールを最大限活用しながら、情報共有・情報配信を促進させる。
- ④ 電子カルテシステムの次期更新に向けての課題を明確にし、次期更新の方針、重点項目、スケジュールを明確化する。

【活動報告】

- ① 情報セキュリティ対策として以下の取り組みを行いセキュリティの向上を図った。
 - I. WSUS サーバを導入し、電子カルテ系 PC にも Windows のセキュリティパッチを適用できるようにした。
 - II. 一部の PC にのみ導入されていたウイルス対策ソフトをほぼ院内全ての PC に展開し、対コンピュータ・ウイルスのセキュリティレベルを向上した。
- ② コアリーダーへの教育を 4 回実施し、障害時の対応レベル向上を図った。
- ③ 電子カルテの更新についてベンダーより概算見積もりを入手し、概算費用についての IT 情報管理委員会メンバー内で情報共有を行い、スケジュールについてはリースを延長し、2017 年度以降に更新することとした。
- ④ 部門システムについて各部署にアンケートを実施し、今後の部門システムへの意向調査を行った。

【実績】

システム室対応件数(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)



【教育】

業務優先により外部のセミナーなど参加できず

【今後の課題】

- ・ コアリーダーへの教育
- ・ 電子カルテ更新に向けた検討
- ・ 老朽化した PC の計画的な更新
- ・ 停電時にも停止しないようにネットワーク機器の見直し

在宅サービス部門

【H27 年度活動計画及び実績】

在宅サービス部門は、職員の定着率が 90%以上を保持し新入職員も 4 名確保することができた。経常利益も 3 事業所全体で 15,517 千円（予算より約 8,063 千円増）という大幅な成績となった。地域からのニーズも止む事無く医療依存度の高い方をはじめ認知症や難病、そして小児のケースが増えている。また、がんのターミナルの方々も後を絶たずの状況である。さらに、在宅看取りのケースも増え始め、住民の死生観の醸成と在宅医をはじめとする在宅療養支援チーム（他職種）の連携の充実と、地域包括支援システム構築が大いに関与してきていると思われる。

訪問看護ステーションは、看護師・理学療法士の補充ができ、医療保険制度での「機能強化型訪問看護管理療養費 2」と介護保険制度での「看護体制強化加算」の取得継続ができており、県内でも大規模の事業所となってきた。ホームヘルプステーションは、介護福祉士が 86%を占め、痰の吸引等の手技取得者が 4 名となり、「特定事業所加算 1」の取得ができており、県内でも能力・質の高い事業所となってきた。居宅介護支援事業所は、全員が主任介護支援専門員となり 176 件/月をキープしながら地域活動へも参画できている。介護予防拠点事業については、例年通り法人全体の協力を得ながら展開し多くの方の参加ができていた。

【H28 年度の課題】

県内でも大規模化の部門となっており、ヴォーリズの基本理念に沿った在宅支援の「核」となっていけるよう、よりスピーディで希望に応じた支援を継続していきたい。また、各関係機関との連携を密にしながら、「地域包括ケアシステム」の構築に協力し、「ヴォーリズグループ」が高く評価していただけるよう、質の向上にも努めていきたい。そのためには、これからも職員の定着率の維持と人材育成（教育）に対する力を惜しまぬようにしていきたい。

また、これから迎える近江八幡市の高齢化問題に対応すべく新しく「看護小規模多機能型居宅介護」設立を目指し、その準備を整えていく年としたい。

訪問看護ステーション ヴォーリス

【スタッフ】

管理者(正看護師)1名、在宅看護専門看護師1名(非常勤)、
正看護師15名(常勤5名、非常勤10名)、理学療法士4名(非常勤)、
事務職員2名(常勤1名、非常勤1名)

【目標】

- ①「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、「里」、「病院」、「老健」、「在宅」が同じ方向に進むよう協力し、連携をとりつつ、より地域から信頼される訪問看護を目指す。
- ②年齢を問わず医療依存度の高い重症ケースや難病等の困難ケースに積極的に対応できるよう体制を整え、満足していただける質の高い訪問看護を目指す。
- ③「機能強化型訪問看護管理療養費2」の取得を維持できるよう癌末期に限定されない在宅ターミナルケアを積極的に受け入れ、最期までその人らしい生活を支援していく。また、亡くなられた方のご家族のグリーフケアにも努める。
- ④職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。
- ⑤法人の経営方針に沿い、収益の向上と経営の安定化を目指す。

【活動報告】

昨年度に比べ、看護師1名と理学療法士が各1名増えたものの、育休や産休等もあり結果的には看護師の常勤換算は△0.5名となった。しかしながら重症ケースの依頼が多く、訪問件数は10,313件となった。事務職員は2名体制で効率的に行っていたが、1名が年度末の2ヶ月間体調不良で休職し、後任もすぐには見つからず過度の業務になってしまった。また、在宅看取りも24件となり、がんや老衰のターミナルの方が増え、医療保険では「機能強化型訪問看護管理療養費2」の取得と、介護保険では「看護体制強化加算」の取得を継続することができたことで収益に繁栄している。これにより経常利益は、予算より大幅に上回る11,818千円となった。

在宅看護専門看護師を中心に実習生の受け入れや講演活動など訪問看護の質の向上と人材育成には力を惜しまないようにしていった。

【実績】

①訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医保	343	315	316	381	340	307	331	311	298	262	329	332	3865
介保	551	476	515	569	509	537	580	535	590	530	524	532	6448

②訪問件数比率（％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医保	38	40	40	40	40	36	36	37	34	33	39	38	38
介保	62	60	60	60	60	64	64	63	66	67	61	62	62

訪問件数(医療・介護保健)比率は、ほとんどが4:6(普通は2:8くらい)、医療保険の方が多く重症度も高かった。前年度に比べ、介護保険での訪問数が約700件増となっている。介護支援専門員を中心に地域のニーズが増していると考えられ、当事業所を選んでいただけていると思われる。24時間コール体制で運営しているが、多い時で40件/月緊急出動している。また、癌疾患の他ターミナル期の方は月平均20名と昨年と変わらず、在宅看取りは年間24名であった。併設のヴォーリズ記念病院からの指示書は約28%と微増で、在宅療養支援病院となった影響もあると思われる。開業医からは50%弱、他の急性期の医療機関からの依頼も増えてきている。介護支援専門員からではなく開業医から直接依頼があることも少なくなかった。

【教育】

院内の研修はもちろんのこと、「小児訪問看護研修」「認知症研修」「難病患者の看護研修」「在宅ターミナルケア」「グリーフケア」「呼吸リハビリテーション」「訪問看護管理者研修」等、専門分野の研修会に数多く参加し、知識・技術の向上に努めることができた。また、「ELNEC-J コアカリキュラム」の研修にも参加し、エンド・オブ・ライフケアの知識を深めることができた。

教育面に関しては、看護学校等への講義や実習生の受け入れを増やし、新入職員に対する同行訪問や面接などを通して「訪問看護の魅力」を伝えられるようにしてきた。また、様々な講演会でのシンポジストや講師等も引き受けながら、地域事業への参画にも努めてきた。

【今後の課題】

毎年の課題でもある「人材不足」は少しずつ改善してきているが、地域からのニーズは益々増えてきており、「新卒訪問看護師」の受け入れを考えながら今現場で頑張っている職員の定着率をキープするようモチベーションを維持させたい。それには、「訪問看護の魅力」を発信することはもちろんであるが、「働きやすい職場作り」と処遇改善を視野に入れスタッフ一人ひとりへの声掛けを減らさないよう努めていきたい。

来年度は、医療保険制度での「機能強化型訪問看護管理療養費1」の取得とその継続を目標に、そして介護保険では「看護体制強化加算」取得継続を目指し、療養者やそのご家族に対し「最期まで我が家で暮らしたい。」という思いに応えるべく、できる限りスピーディで希望に応じた支援をしていきたい。そして、地域から選ばれる「ヴォーリズの訪問看護」として、誇りを持って質の高いサービスを提供していきたい。

また次年度は、新しく「看護小規模多機能型居宅介護」の設立に向けて準備を整えていく年にしたいと思っている。

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

【スタッフ】

常勤介護従事者 4 名

うち管理者 1 名（サービス提供責任者・介護従事者兼務）、

サービス提供責任者 2 名（介護従事者兼務）、 事務職員 1 名（介護従事者兼務）

非常勤介護従事者 5 名

非常勤事務職員 1 名

	常 勤	非常勤	資 格 等
管理者	1 名 (サービス提供責任者兼務)		介護福祉士
サービス提供責任者	2 名		介護福祉士
介護従事者	0 名	5 名	介護福祉士・介護基礎研修修了者 実務者研修修了者修了者
事務職員	1 名（介護従事者兼務）	1 名	介護福祉士

【目標】

- ① 喀痰吸引等ができるヘルパーが 4 名になり、重症ケースにも引き続き対応し、収益に繋げる。
- ② 在宅ヘルパーを希望する人材育成に力を入れ、住み慣れた地域で最期まで暮らせるようにする。
- ③ 働きやすい職場をめざすとともに、安全運転や職員の健康管理にも留意しながら勤務体制を整える。

【活動報告】

平成 27 年度は、「特定事業所加算Ⅰ」を習得し、利用者数の動きなどの様子を見て、事業所の方向性を模索する年になった。喀痰吸引の出来るヘルパー4 名が対応できる重症の利用者さんや、障がいの利用者さんは増えてきている。次年度も喀痰吸引等の手技習得のための研修に 2 名追加予定している。

【実績】

訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護 保険	1136	1157	1115	1223	1147	1067	992	840	713	698	719	758	11565
障がい者 支援	152	158	195	165	157	167	213	168	159	170	142	174	1867

障がいサービスは年々増え続けており、安定した収益が見込める。(前年より 133 回多い)

介護保険の初回加算は 51 件、緊急加算は 120 回あった。

介護保険での訪問は、前年より 3040 回少なく「特定事業所加算Ⅰ」を習得したことで生活支援の回数が減ったことが原因と考えられる。

【教育】

ヴォーリズ記念病院の職員として院内の研修には、全員が参加することができた。

外部研修については経験年数に応じ、階層別研修・専門分野研修等に積極的な参加を促進した。また、二級ヘルパー習得者が実務者研修を終了するなど自己研鑽してくれている。

【今後の課題】

訪問従事者 12 名中 10 名が介護福祉士資格を習得し、内 4 名が喀痰吸引等ができるヘルパーとして登録し、重症の利用者さんに対応してきた。今後も継続して研鑽を重ね、地域から信頼される事業所を目指し、努力をしていきたい。引き続き事業所加算Ⅰを習得し、重症の利用者さんに対応できる事業所とし、医療依存度の高い人でも最期までご自宅での生活が送れるよう支援する事業所として特色づけていきたいと考えている。

居宅介護支援事業所

【スタッフ】

管理者(主任介護支援専門員)1名 介護支援専門員4名(内主任介護支援専門員4名)
事務員1名(非常勤)

【目標】

1. W・M ヴォーリズの創立精神を継承し、「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、利用者の在宅における生活の質の向上を目指しケアプラン作成に取り組む。
2. 里の連携を強化し、「地域の在宅支援の核」として、地域の各機関との連携にも努め、介護保険制度に基づいた適正な介護サービスを提供する。
3. 事業所内の協力を深め、個々の能力を高め、質の高いサービスを目指し、事業運営の安定を図る。

【活動報告】

新規利用者51名を受け入れることができた。その内訳として、在宅23名、ヴォーリズ関連施設16名、他施設5名、医療機関7名であった。今年度末に、介護支援専門員1名退職するにあたり、引継ぎ等で新規依頼を積極的に受けられず、多忙な時期もあったが、全スタッフの協力にて乗り越えることができた。また、行政からの依頼で、地域ケア会議に1年を通して参加し、地域課題の抽出に協働した。

【実績】

月別利用者数(給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月平均
利用者 人数	181	183	183	179	178	181	175	176	179	175	168	171	176

【教育】

院内研修はもちろんのこと、外部研修にも積極的に参加できるようにした。

外部研修は主に主任介護支援専門員の研修や、難病・看取り・多種職連携に関する研修、個々のスキルに基づいた階層別研修等に参加し、個々のスキルアップに努めた。

【今後の課題】

平成28年度は、介護支援専門員5名全てが主任介護支援専門員となり、求められる役割も大きくなると予想されるため、更なる個々のレベルアップと事業所全体の質の向上に努めたい。

介護予防拠点事業 いきいきサロンヴォーリス

アンドリュース記念館を介護予防事業の拠点として、平成 19 年から介護予防教室、ゴムバンド体操教室、歌声サロン等の活動を概ね週 1 回程度の開催から行なってきた。地域からの高齢者が気軽に集える場所として、また活動を通して介護予防の目的も達している。今後も主として在宅サービス部門が担当し、公益財団本部・病院・老健と協働し、地域貢献事業として継続していく。平成 27 年度は、以下の事業を展開した。

○介護予防教室

			参加数
5 月	「折り紙教室 PART IX」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	23 名
7 月	「血压のはなし 防ごう高血圧」	ヴォーリス記念病院 院長補佐 三ッ浪 健一 氏 管理栄養士 徳岡 貴美 氏	25 名
9 月	「住みよい街づくり」	訪問看護ステーションヴォーリス 在宅看護専門看護師 田村 恵 氏	23 名
11 月	「折り紙教室 PART X」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	21 名
2 月	「自宅でできる簡単体操」	メディカルフィットネスセンター トレーナー 久保 大志 氏	40 名
合計			132 名

○歌声サロン

	参加人数
4 月	40 名
5 月	41 名
6 月	35 名
7 月	25 名
9 月	30 名
10 月	29 名
11 月	23 名
12 月	27 名
1 月	30 名
2 月	30 名
3 月	26 名
合計	336 名

○ゴムバンド体操教室（毎週月曜日）

	回数	参加人数
4 月	4 回	47 名
5 月	3 回	37 名
6 月	5 回	56 名
7 月	3 回	29 名
9 月	3 回	29 名
10 月	3 回	25 名
11 月	4 回	35 名
12 月	3 回	30 名
1 月	2 回	15 名
2 月	5 回	36 名
3 月	3 回	18 名
合計	38 回	357 名

診療情報管理室

【スタッフ】

診療情報管理士（2名）

【目標】

- ① 患者さんやご家族が利用しやすい環境づくりを行う。
- ② 電子カルテ運用の効率化に継続的に取り組む。
- ③ 医療の質の向上に努める。
- ④ 病院経営指標（機能性指標）の分析作成に努める。
- ⑤ 全国がん登録にむけての取り組みに努める。

【活動報告】

- ① 開示等 11 件
裁判関係資料… 6 件、警察関係… 5 件
- ② 電子保存の 3 原則を遵守し使用・入力しやすい電子カルテ操作書の作成を行った。
同意書の電子カルテ入力作成、検査オーダーのひも付等
- ③ 診療記録の監査（内部監査施行）実施。
- ④ 病棟別、医師別、平均在院日数、病床回転数、病床利用率、外来入院患者数比率などの統計を毎月行った。
- ⑤ 平成 28 年 1 月から実施される全国がん登録研修に参加
H27 年 11 月 5 日、12 月 24 日、H28 年 1 月 21 日、3 月 11 日

【実績】

滋賀医大より脳卒中データ読み取り作業 → H25 年度分
地域がん登録 H27 年 28 名（ホスピス病棟含まない）
全国がん登録 H28 年 1 月 3 名、2 月 7 名、3 月 11 名

【教育】

平成 27 年度 がん登録実務者初級者認定証（2015 年 10 月 01 日）

【今後の課題】

日本診療情報管理学会学術大会、生涯教育研修会など積極的に参加を行い診療情報管理および情報技術（IT）に関する情報交換を行い他病院とのネットワークを構築していけたらと考えます。

診療情報管理室

2015年(H27年) 疾病別 年齢階層別 性別 退院患者数																
ICD大分類			合計	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	平均年齢
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	男	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0	78.6
		女	7	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4	0	1	75.1
		合計	12	0	0	0	0	2	1	0	0	0	6	2	1	
Ⅱ	新生物	男	112	0	0	0	2	0	11	21	19	15	11	23	10	74.7
		女	113	0	0	0	1	3	7	15	19	14	14	25	15	77.0
		合計	225	0	0	0	3	3	18	36	38	29	25	48	25	
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅳ	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	19	0	0	0	0	1	0	1	2	4	3	5	3	79.4
		女	22	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	6	11	88.4
		合計	41	0	0	0	0	1	0	1	2	5	7	11	14	
Ⅴ	精神及び行動の障害	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	85.1
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	85.2
		合計	12	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	4	
Ⅵ	神経系の疾患	男	13	0	0	0	0	0	3	1	1	0	4	3	1	76.0
		女	23	0	0	0	0	1	0	6	1	3	1	6	5	78.6
		合計	36	0	0	0	0	1	3	7	2	3	5	9	6	
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	86.0
		女	4	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	69.5
		合計	5	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	1	
Ⅸ	循環器系の疾患	男	79	0	0	0	0	3	7	12	14	11	16	8	8	75.1
		女	113	0	0	0	1	3	7	14	8	15	16	22	27	79.1
		合計	192	0	0	0	1	6	14	26	22	26	32	30	35	
Ⅹ	呼吸器系の疾患	男	58	0	0	0	0	2	1	4	3	9	15	13	11	81.3
		女	51	0	0	0	1	1	2	0	3	1	7	18	18	84.6
		合計	109	0	0	0	1	3	3	4	6	10	22	31	29	
ⅩⅠ	消化器系の疾患	男	57	0	0	1	0	3	8	9	14	10	5	5	2	69.5
		女	39	0	0	0	0	3	0	4	3	8	7	4	10	79.3
		合計	96	0	0	1	0	6	8	13	17	18	12	9	12	
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	男	7	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	2	1	77.4
		女	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4	2	85.6
		合計	15	0	0	0	0	0	1	3	0	1	1	6	3	
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	16	0	0	0	0	2	0	0	4	3	3	3	1	75.3
		女	18	0	0	0	0	0	1	0	1	2	4	2	8	85.4
		合計	34	0	0	0	0	2	1	0	5	5	7	5	9	
ⅩⅣ	腎尿路器系の疾患	男	7	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	2	0	80.7
		女	10	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	2	4	80.7
		合計	17	0	0	0	1	0	0	0	4	0	4	4	4	
ⅩⅤ	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅦ	先天奇形、変形及び染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅧ	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	9	0	0	0	0	0	1	0	2	2	2	2	0	76.9
		女	13	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	8	87.5
		合計	22	0	0	0	0	0	1	1	3	3	3	3	8	
ⅩⅨ	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	45	0	0	0	0	0	1	2	10	10	8	10	4	79.6
		女	106	0	0	1	0	2	2	4	6	14	31	22	24	82.2
		合計	151	0	0	1	0	2	3	6	16	24	39	32	28	
ⅩⅩ	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅩⅠ	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数			969	0	0	2	6	28	55	97	116	127	167	192	179	

2015年(H27年) 疾病別 在院期間別 性別 退院患者数

ICD大分類			合計	1～7	8～14	15～21	22～30	31～60	61～90	3月～6月	6月～1年	1年～2年	2年～	3年～	平均 在院日数
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	男	5	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	20.6
		女	7	0	1	0	0	4	1	1	0	0	0	0	55.3
		合計	12	1	1	1	1	5	2	1	0	0	0	0	
Ⅱ	新生物	男	112	27	28	15	11	17	6	6	2	0	0	0	31.6
		女	113	22	24	16	17	17	5	6	5	0	0	1	52.8
		合計	225	49	52	31	28	34	11	12	7	0	0	1	
Ⅲ	血液及び造血系の疾患並びに 免疫機構の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅳ	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	19	3	4	7	3	1	1	0	0	0	0	0	19.7
		女	22	4	4	1	7	4	1	1	0	0	0	0	27.8
		合計	41	7	8	8	10	5	2	1	0	0	0	0	
Ⅴ	精神及び行動の障害	男	7	2	0	0	0	1	0	1	2	0	0	1	268.7
		女	5	2	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	199.4
		合計	12	4	0	0	0	2	0	1	3	1	0	1	
Ⅵ	神経系の疾患	男	13	2	1	2	1	1	1	2	1	0	1	1	215.8
		女	23	2	4	2	4	5	1	2	2	0	0	1	131.1
		合計	36	4	5	4	5	6	2	4	3	0	1	2	
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9.0
		女	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8.0
		合計	5	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅸ	循環器系の疾患	男	79	20	11	8	4	8	11	16	1	0	0	0	51.7
		女	113	23	13	6	7	10	10	36	4	3	0	1	90.4
		合計	192	43	24	14	11	18	21	52	5	3	0	1	
Ⅹ	呼吸器系の疾患	男	58	13	10	8	6	8	4	5	2	0	2	0	65.7
		女	51	11	11	6	7	11	2	1	2	0	0	0	35.0
		合計	109	24	21	14	13	19	6	6	4	0	2	0	
ⅩⅠ	消化器系の疾患	男	57	19	19	10	3	2	1	2	1	0	0	0	20.1
		女	39	14	9	2	3	6	1	1	1	1	1	0	56.2
		合計	96	33	28	12	6	8	2	3	2	1	1	0	
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	男	7	0	2	1	0	2	2	0	0	0	0	0	38.9
		女	8	0	1	2	1	4	0	0	0	0	0	0	27.4
		合計	15	0	3	3	1	6	2	0	0	0	0	0	
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	16	1	2	3	1	3	2	4	0	0	0	0	56.9
		女	18	0	1	4	1	4	5	3	0	0	0	0	55.8
		合計	34	1	3	7	2	7	7	7	0	0	0	0	
ⅩⅣ	腎尿路性器系の疾患	男	7	1	2	0	2	1	1	0	0	0	0	0	28.6
		女	10	2	2	1	3	2	0	0	0	0	0	0	18.9
		合計	17	3	4	1	5	3	1	0	0	0	0	0	
ⅩⅤ	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅦ	先天奇形、変形及び染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅧ	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類されないもの	男	9	3	1	1	0	1	2	0	0	1	0	0	84.4
		女	13	3	1	2	2	2	2	1	0	0	0	0	32.1
		合計	22	6	2	3	2	3	4	1	0	1	0	0	
ⅩⅨ	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	45	2	2	5	7	10	13	4	1	1	0	0	59.9
		女	106	9	4	6	9	34	38	5	0	1	0	0	54.7
		合計	151	11	6	11	16	44	51	9	1	2	0	0	
ⅩⅩ	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅩⅠ	健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数			969	188	160	111	100	160	111	97	25	8	4	5	

2015年(H27年)
診察圏別 診療科別 退院患者数

		全科	内 科	循環器科	呼吸器科	外 科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	リハビリ
東近江	近江八幡市	368	17			258				93
	蒲生郡	23	1			13			6	3
	東近江市	49	4			26				19
大津	大津市	1				1				
湖南	草津市	2				2				
	栗東市	1				1				
	守山市	1	1							
	野洲市	6				6				
甲賀	湖南市	0								
	甲賀市	0								
湖東	彦根市	6				3				3
	愛知郡	1				1				
	犬上郡	0								
湖北	長浜市	2	2							
	米原市	0								
湖西	高島市									
他府県		5				3				2
不明		0								
総数		465	25	0	0	314	0	0	6	120

2015年(H27年)
診察圏別 診療科別 退院患者数(近江八幡市・蒲生郡)

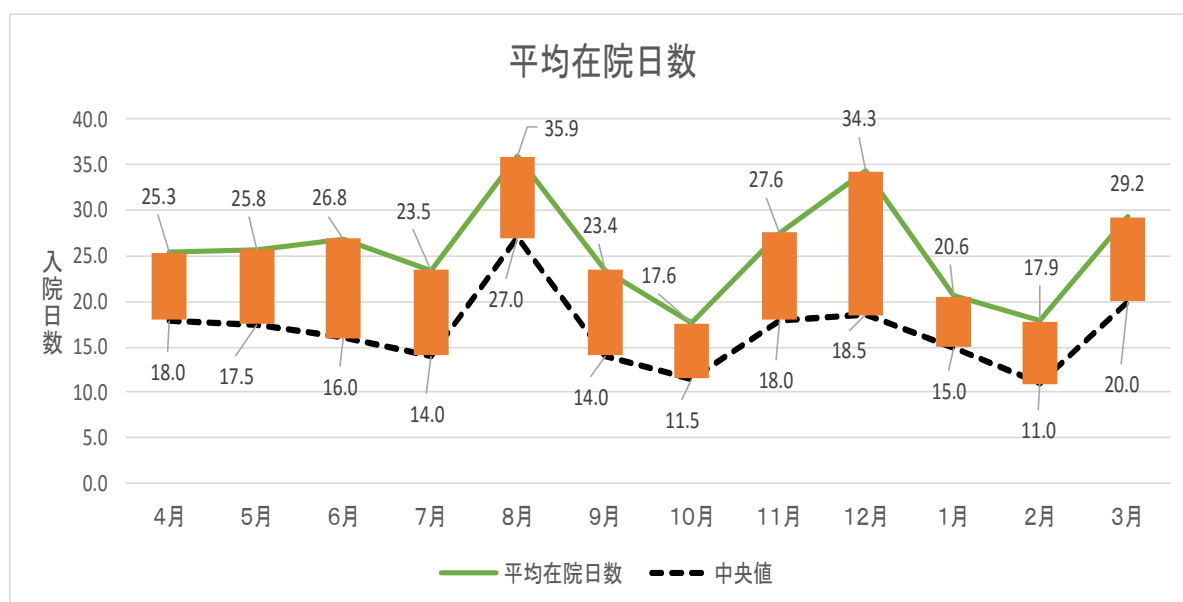
		全科	内 科	循環器科	呼吸器科	外 科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	リハビリ
近江八幡市	八幡学区	108	10			80				18
	島学区	20				13				7
	岡山学区	39	1			25			7	6
	金田学区	73	2			36			22	13
	桐原学区	75	1			36			16	22
	馬淵学区	12				10				2
	北里学区	13				8				5
	武佐学区	25	3			16				6
	安土学区	72				34			24	14
	老蘇学区	0								
近江八幡市 総数		437	17	0	0	258	0	0	69	93
蒲生郡	竜王町	15	1			9			2	3
	日野町	8				4			4	
	蒲生町	0								
蒲生郡 総数		23	1	0	0	13	0	0	6	3
合計		460	18	0	0	271	0	0	75	96

<1病棟 平均在院日数> 平成27年度

月別 平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院数	48	43	46	46	42	50	47	32	51	42	48	41
入院日数合計	1191	1082	1208	1056	1473	1149	808	855	1716	843	840	1169
平均在院日数	25.3	25.8	26.8	23.5	35.9	23.4	17.6	27.6	34.3	20.6	17.9	29.2
中央値	18.0	17.5	16.0	14.0	27.0	14.0	11.5	18.0	18.5	15.0	11.0	20.0

※中央値…観測値を大きさの順に並べたとき、中央に位置する値。中央付近に来る一部の値のみがデータ群の傾向を示すという短所がある一方、外れ値の影響を受けにくいという長所がある。



月別 在院日数の 長い順	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	130	96	259	95	195	143	90	133	534	77	111	117
2	90	84	65	94	195	95	77	79	102	58	73	99
3	89	80	53	85	107	82	70	79	77	55	63	82
4	85	70	50	65	69	66	58	68	61	54	59	72
5	84	65	47	57	68	54	46	56	60	43	37	68
6	73	61	46	56	66	47	41	51	59	43	32	64
7	60	56	43	54	56	46	28	36	50	37	29	55
8	48	53	43	53	52	44	28	33	47	36	29	48
9	31	51	40	52	45	43	24	32	47	36	27	46
10	31	43	40	37	44	42	23	26	45	32	22	42

(注) **赤字**は、90日超の入院患者を示す。…計17人

<2病棟 疾患別統計> (平成27年度)

退院数・・・173名

脳血管疾患 74人

疾患名	ICD-10	人数	全体率	平均年齢
くも膜下出血	I609	1	1.4%	79.0
視床出血	I610	19	25.7%	71.1
小脳出血	I614	3	4.1%	72.0
慢性硬膜下血腫	I620	3	4.1%	73.0
アテローム血栓性脳梗塞	I633	14	18.9%	75.6
心原性脳塞栓症	I634	4	5.4%	81.5
小脳梗塞	I635	4	5.4%	81.5
静脈血栓性脳梗塞	I636	1	1.4%	49.0
ラクナ梗塞	I638	17	23.0%	73.6
脳梗塞	I639	4	5.4%	72.8
右内頸動脈閉塞症	I652	1	1.4%	45.0
出血性脳塞栓	I669	1	1.4%	74.0
脳梗塞後遺症	I693	2	2.7%	68.5
合 計	—	74	100.0%	—

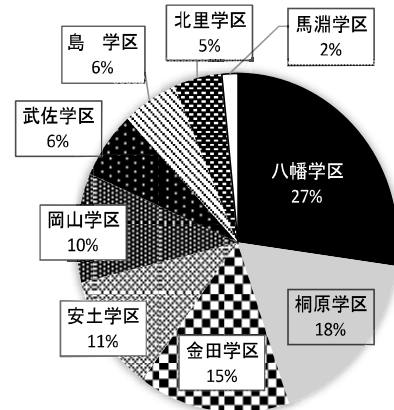
骨折 82人

疾患名	ICD-10	人数	全体率	平均年齢
人工股関節周囲骨折	M966	2	4.7%	88.5
胸椎圧迫骨折	S2200	3	7.0%	80.3
腰椎圧迫骨折	S3200	7	16.3%	85.6
寛骨臼骨折	S3240	3	7.0%	83.7
恥骨骨折	S3250	3	7.0%	84.0
骨盤骨折	S3280	1	2.3%	59.0
大腿骨頸部骨折	S7200	24	55.8%	80.7
大腿骨転子部骨折	S7210	33	76.7%	85.1
大腿骨骨幹部骨折	S7230	2	4.7%	89.0
大腿骨顆上骨折	S7240	1	2.3%	75.0
習慣性股関節前方脱臼	S730	1	2.3%	83.0
脛骨高原骨折	S8210	1	2.3%	74.0
踵骨骨折	S9200	1	2.3%	66.0
合 計	—	43	100.0%	—

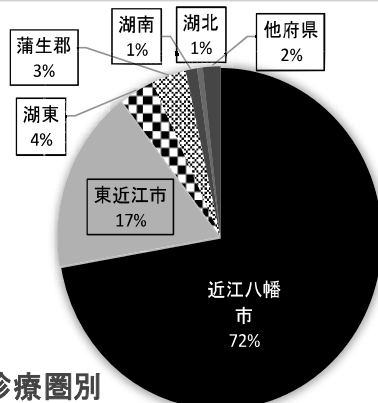
その他 17人

疾患名	ICD-10	人数	全体率	平均年齢
脊髄腫瘍	D434	1	5.9%	58.0
水頭症	G919	1	5.9%	63.0
右下垂足	M2137	1	5.9%	90.0
腰椎後側弯症	M4196	1	5.9%	82.0
胸椎化膿性脊椎炎	M4654	1	5.9%	71.0
頸椎症性脊髄症	M4712	3	17.6%	79.7
頸椎後縦靱帯骨化症	M4882	1	5.9%	78.0
頸椎椎間板ヘルニア	M502	1	5.9%	42.0
第12胸椎偽関節	M8418	1	5.9%	53.0
脳挫傷	S0620	2	11.8%	68.0
急性硬膜下血腫	S0650	2	11.8%	84.5
頸髄損傷	S141	2	11.8%	72.0
合 計	—	17	100.0%	—

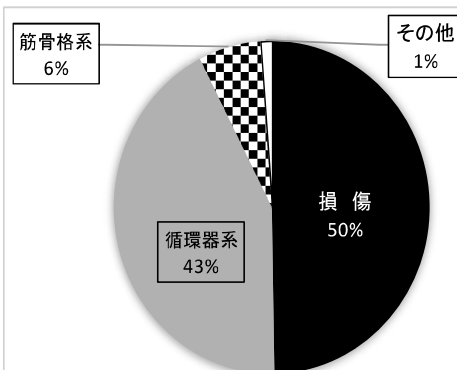
近江八幡市学区別



診療圏別



疾患系ごとの割合

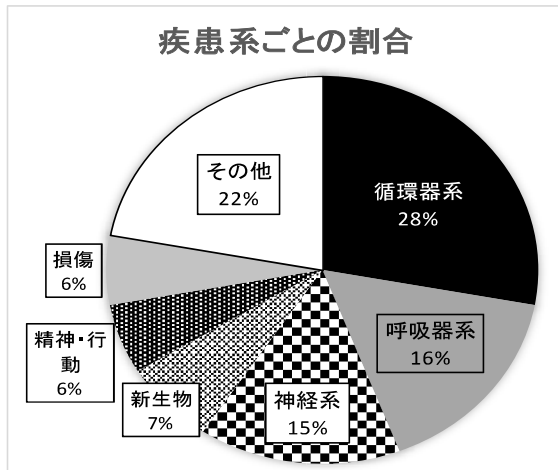
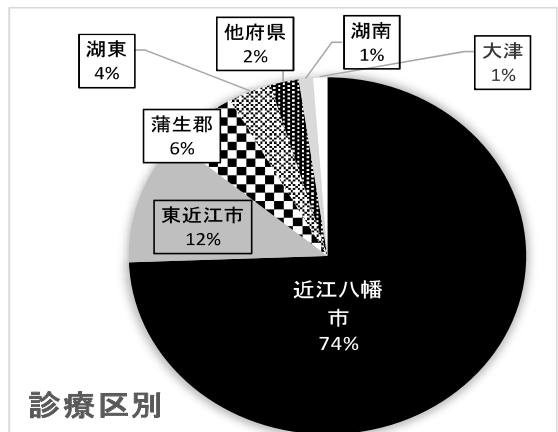
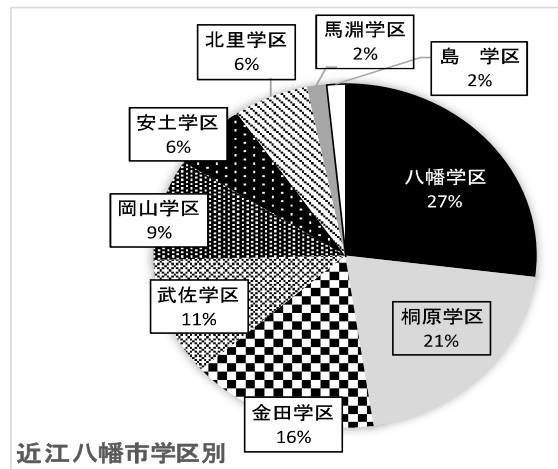


ICD-10大分類	人数
I 損傷	86
M 循環器系	74
D 筋骨格系	11
その他	2
	173

<3病棟 疾患別統計> (平成27年度)

退院数・・86名

疾患名	ICD-10	人数	全体率
敗血症性ショック	A419	1	1.2%
C型肝硬変症	B182	1	1.2%
食道癌	C159	1	1.2%
大腸癌	C189	1	1.2%
直腸癌	C20	1	1.2%
左上葉肺癌	C341	1	1.2%
左下葉肺癌	C343	1	1.2%
転移性脳腫瘍	C793	1	1.2%
播種性血管内凝固	D65	1	1.2%
キャスルマン病	D477	1	1.2%
2型糖尿病	E11	1	1.2%
脱水症	E86	2	2.3%
認知症	F03	5	5.8%
パーキンソン病	G20	7	8.1%
進行性核上性麻痺	G231	1	1.2%
アルツハイマー型老年認知症	G301	1	1.2%
アルツハイマー型認知症	G309	3	3.5%
低酸素性脳症	G931	1	1.2%
急性冠症候群	I248	1	1.2%
陳旧性心筋梗塞	I252	1	1.2%
うっ血性心不全	I500	1	1.2%
慢性左心不全	I501	1	1.2%
心不全	I509	7	8.1%
視床出血	I610	2	2.3%
小脳出血	I614	1	1.2%
心原性脳塞栓症	I634	1	1.2%
脳幹梗塞	I635	1	1.2%
脳梗塞	I639	1	1.2%
くも膜下出血後遺症	I690	1	1.2%
脳出血後遺症	I691	2	2.3%
脳梗塞後遺症	I693	3	3.5%
下肢閉塞性動脈硬化症	I702	1	1.2%
気管支肺炎	J180	2	2.3%
肺炎	J189	4	4.7%
肺気腫	J439	2	2.3%
慢性閉塞性肺疾患	J449	1	1.2%
気管支拡張症	J47	1	1.2%
誤嚥性肺炎	J690	3	3.5%
間質性肺炎	J849	1	1.2%
肝性昏睡	K729	1	1.2%
多発性胆石症	K802	1	1.2%
胆管炎	K830	1	1.2%
慢性膵炎	K861	1	1.2%
大腿骨転子部褥瘡	L89	1	1.2%
リウマチ性多発筋痛	M353	1	1.2%
頸部脊柱管狭窄症	M4802	1	1.2%
慢性腎不全	N189	1	1.2%
右第5趾先端壊死	R02	1	1.2%
老衰	R54	1	1.2%
食欲不振	R630	1	1.2%
多臓器不全	R688	1	1.2%
腰椎圧迫骨折	S3200	1	1.2%
脳挫傷	S0620	2	2.3%
左大腿骨頸部骨折	S7200	1	1.2%
脳挫傷後遺症	T905	1	1.2%
合 計		86	100.0%



ICD-10大分類	人数
I 循環器系	24
J 呼吸器系	14
G 神経系	13
C-D 新生物	6
F 精神・行動	5
S-T 損傷	5
その他	19
合 計	86

<緩和ケア病棟 疾患別統計> (平成27年度)

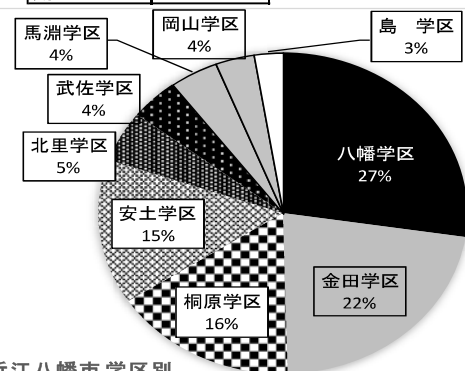
退院数・175名

悪性新生物の種類

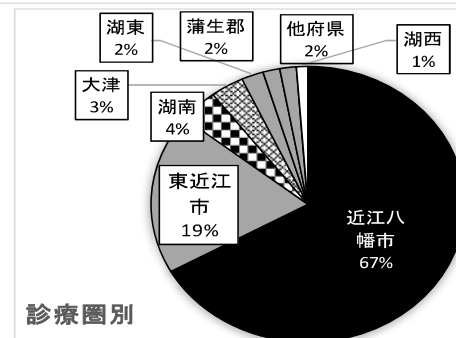
疾患名	中分類	患者数	全体率	死亡数	死亡率
類粘膜癌	C06	1	0.6%	1	100.0%
耳下腺癌	C07	1	0.6%	1	100.0%
顎下腺癌	C08	1	0.6%	1	100.0%
咽頭癌	C14	3	1.7%	2	66.7%
食道癌	C15	2	1.1%	2	100.0%
胃癌	C16	16	9.1%	13	81.3%
結腸癌	C18	10	5.7%	8	80.0%
直腸S状部結腸癌	C19	1	0.6%	1	100.0%
直腸癌	C20	5	2.9%	3	60.0%
肛門癌	C21	3	1.7%	2	66.7%
肝細胞癌	C22	3	1.7%	3	100.0%
胆嚢癌	C23	2	1.1%	1	50.0%
胆管癌	C24	2	1.1%	2	100.0%
膵癌	C25	15	8.6%	12	80.0%
喉頭癌	C32	1	0.6%	1	100.0%
肺癌	C34	35	20.0%	27	77.1%
胸腺癌	C37	1	0.6%	1	100.0%
悪性黒色腫	C43	1	0.6%	1	100.0%
悪性胸膜中皮腫	C45	1	0.6%	1	100.0%
後腹膜脂肪肉腫	C48	2	1.1%	1	50.0%
骨盤軟部腫瘍	C49	1	0.6%	1	100.0%
乳癌	C50	11	6.3%	8	72.7%
子宮頸癌	C53	1	0.6%	1	100.0%
子宮体癌	C54	2	1.1%	1	50.0%
卵巣癌	C56	10	5.7%	7	70.0%
卵管癌	C57	3	1.7%	2	66.7%
前立腺癌	C61	8	4.6%	5	62.5%
陰のうバジレット病	C63	1	0.6%	1	100.0%
腎癌	C64	1	0.6%	1	100.0%
尿管癌	C66	1	0.6%	1	100.0%
膀胱癌	C67	4	2.3%	4	100.0%
涙のう癌	C69	1	0.6%	1	100.0%
側頭葉膠芽腫	C71	2	1.1%	1	50.0%
甲状腺癌	C73	2	1.1%	2	100.0%
部位不明癌	C76	1	0.6%	1	100.0%
続発癌	C78	10	5.7%	10	100.0%
非ホジキンリンパ腫	C85	1	0.6%	0	0.0%
多発性骨髄腫	C90	2	1.1%	1	50.0%
リンパ性白血病	C91	2	1.1%	1	50.0%
悪性新生物以外					
HIV脳症	B22	3	1.7%	0	0.0%
悪性症候群	G21	1	0.6%	0	0.0%
右誤嚥性肺炎	J69	1	0.6%	0	0.0%
合 計	—	175	100.0%	133	76.0%

診療圏別・学区別(人)

全体	175
近江八幡市	117
八幡学区	32
金田学区	26
桐原学区	19
安土学区	17
北里学区	6
武佐学区	5
馬淵学区	5
岡山学区	4
島 学区	3
東近江市	33
湖南	7
大津	6
湖東	4
蒲生郡	3
他府県	3
湖西	2

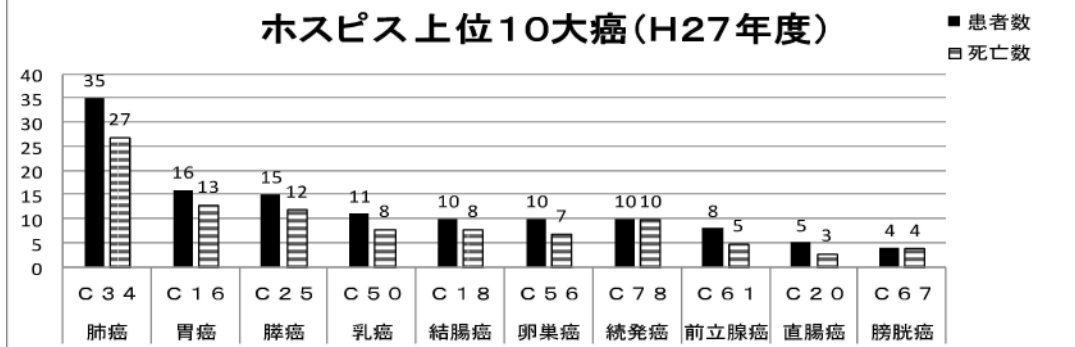


近江八幡市学区別



診療圏別

ホスピス上位10大癌(H27年度)



礼拝堂

【スタッフ】

チャプレン1名（常勤）

1 礼拝堂

- ① 始業礼拝が定着。礼拝を持って新たな月が始まることの意識が増してきた。
- ② 病床訪問について関係性を築く働きなど意識した。
- ③ ミュージックタイムは毎月実施できた。演奏者も定着。
今後、参加者のレパートリーを少し増やしていければと願っている。

2 全体まとめ

- ① 追悼会の参加者は過去の実績から毎回平均して招待者の10～20%の出席率。
委員会主催の行事ではあるが、参加を呼びかけるがスタッフの参加は勤務体制もあり難しいのが現状。院長、理事長の出席は大きな意味を持つ。
あわせて関係あった医師の参加を今後も促したい。
- ② 新人オリエンテーションを担当。フォローアップが課題。
病院全体としての育成、教育プランについてシステム化する必要を感じている。
入職時期が年間を通してあり、職制も多様なため、一体感を目指すことの難しさは増している。

3 総括

- ① 着任8年目、追悼会、クリスマスなど安定した運営となってきた。
- ② 具体的な形でスタッフが「理念」に基づいての働きを意識しているか計ることはできないが、有形無形、無言の中にあって患者さんへの対応の評価から理念に基づいた働きが実践されているように思う。
理念に添って、そして今まで以上に理念に基づいた働き、実践を支え励ます働きを担うようにしたい。
- ③ 日曜礼拝は主にケアハウス入居者の参加が中心となるが「里」にある教会、牧師としての役割と自覚にたった関わりをこれからも意識したい。
単に病院業務に止まらず「里」における役割、機能を今後検討し評価を得たい。

委員会報告

会議・委員会組織図

特定事項に関する委員会

教育委員会
委員長 西山 洋平
接遇委員会
委員長 村松 淳子
人権委員会
委員長 周防 正史 (窓口) 櫻井 卓哉
全人的ケア推進委員会
委員長 増田 繁美
給与・規約委員会
委員長 澤谷 久枝
倫理委員会
委員長 周防 正史
広報委員会
委員長 大南 真人
ボランティア委員会
委員長 堀井 由高
倫理委員会
委員長 周防 正史
IT情報管理委員会
委員長 島川 義昭
クリニカルパス委員会
委員長 新庄 安宏
薬事協議会
委員長 古武まゆみ
機能評価委員会
委員長 中野 さつき (窓口) 澤谷 久枝
図書委員会
委員長 大南 真人

法令等に基づく委員会

院内感染防止対策委員会
対策チーム
委員長 周防 正史
褥瘡対策委員会
対策チーム
委員長(専任医師) 北野 晴久 (専任看護師)
1病 濱野 縁 2病 小西綾子 3病 浦谷安美 ホスピス 桐畑由美
医療安全管理委員会
委員長 周防 正史
医療安全管理 リスクマネジメント部会
委員長 加藤 和幸
医療機器安全対策チーム
委員長 鯉江 賢二
栄養管理委員会
委員長 徳岡 貴美
NST委員会
委員長 徳岡 貴美
安全衛生委員会
委員長 古武まゆみ
医療廃棄物管理委員会
委員長 濱野 晃資
医療ガス安全管理委員会
委員長 周防 正史
臨床検査適正化委員会
委員長 鯉江 賢二
診療情報管理委員会
委員長 加賀爪優子
新薬新規採用及び治験薬審査・ 血液製剤使用委員会
委員長 三ッ浪健一
個人情報保護対策委員会
委員長 加賀爪優子
自衛消防隊
委員長(隊長) 周防 正史 (防火管理者) 堀井 由高

平成27年(2015年)10月現在

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

会議・連絡会・委員会組織図



2015 年度報告（平成 27 年度） 業務連絡・業務改善委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	澤谷 久枝
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 在宅部門長 事務部長 事務次長 看護部（5 名） 検査科（1 名） 放射線科（1 名） 栄養科（1 名） リハビリ科（1 名） 医事課（1 名） 地域連携課（1 名） 診療情報管理室（1 名） システム室（1 名） 礼拝堂（1 名） 企画渉外課（1 名）		
活動内容 （成果）	業務連絡 ・各部署、委員会からの連絡事項、マニュアル更新などの周知と確認。 ・行事、委員会等の調整及び具体的実施の確認。 ・節電、節水など省エネに対する取り組みと周知。空調設備更新工事实施。 ・人事関係の報告。 ・駐車場問題。県道向かい側の契約再開により充足。 ・すこやかフェスタ参加要請。 ・リレーフォーライフ協賛の件。 業務改善 ・施設周囲の環境整備の実施の継続。 ・退院アンケート・“みなさまの声”に対する改善、回答の実行。 ・監査委員会（年 2 回）の継続 ・健診室処置室・7 診の部屋の変更。 ・院長・事務長の部署訪問実施。 ・C Sセットの対象者の見直し。 ・12 月～医療費支払いクレジットカード使用開始。 ・出張伺い書運用変更。		
課 題	・決定事項の周知と継続。 ・改善へ向けた P D C A サイクルの徹底。 ・退院アンケート内容の検討。（患者満足度調査と改善） 医療の質向上、環境、設備、職員接遇の向上に繋げる。 ・継続的改善事項の評価。		

2015 年度報告（平成 27 年度） 給与・規約プロジェクト委員会			
人員構成			
委員長	澤谷 久枝	副委員長	
委員構成	事務長 事務部長 診療技術部長 看護部長 在宅部門長 職員会：3 名（会長・副会長 2 名） 医師（1 名） 管理課（1 名） 看護師（1 名） 看護助手（1 名） リハビリテーション科（1 名） ヘルパーステーション（1 名）		
活動内容 （成果）	・給与・規約プロジェクト委員会メンバー14 名で活動した。 内容は下記に示すとおり。 1. 就業規則の見直し ・マイナンバー制度における全体研修会の実施。 ・就業規則に取り入れる準備。 2. 給与関係 ・夏期賞与（6 月 26 日）・冬期賞与（12 月 18 日）に付いての説明 ・ゴールデンウィーク祝日手当 1,000 円の支給について、16 時間勤務の場合は、2 日分ではなく 1 勤務とみなし 1,000 円で在ることを周知。 3. 福利厚生関連 ・福利厚生のあり方について検討を重ねた。職員会主導のアンケート実施。 ・団体扱い自動車保険制度の取り入れ。東京海上保健の割引（5％）。 ・ユニフォーム貸与に対して、枚数の改善→レンタルにて 4 枚（増）検討を継続。 4. その他 ・毎月の損益計算書の説明を継続。着目すべき点については理解が深められた。		
課 題	・福利厚生についての検討の継続（職員旅行含む） ・人事制度の完成度を上げる。 新評価者への教育。 ・マイナンバー制度の就業規則への掲載。		

2015 年度報告（平成 27 年度） 自衛消防隊			
人員構成			
委員長	周防 正史 (自衛消防隊隊長)	副委員長	堀井 由高 (防火管理者)
委員構成	地区隊長（1 名） 防火管理者（1 名） 副防火管理者（1 名） 事務部（2 名） 診療技術部（1 名） 看護部（6 名） 事務長 里統括防火管理者（1 名）		
活動内容 (成果)	・避難・救出・消化器取扱い訓練 2 回開催 (平成 27 年 9 月 15 日、平成 28 年 3 月 2 日) 特に第 2 回目の訓練は、里全体の訓練とし、8 年ぶりにハシゴ車・タンク車・救助工作車・救急車も出動。東館 3 階から逃げ遅れ患者をハシゴ車で救出する等、本格的・臨場感のある訓練となった。 また、ボランティアさんにも約 10 名の参加をいただき、患者救出のサポートをしていただいた。 ・初期消火競技会への参加 屋内消火栓操法・消火器操法部門ともに、準優勝というダブル受賞に輝いた。 ・自衛消防隊組織表・非常連絡網の見直しと作成 ・自衛消防隊の各班の役割の明確化 ・各部署火元責任者の確認と一覧の見直しと作成 ・毎月 1 日を防火・防災デーと定めており、その日を機会に、各部署の消防設備を点検し報告するシステムを整えた。		
課 題	・災害時の対処法に対し不備・問題点を抽出し、現在の防災マニュアルの改訂が必要 ・避難用具、備品関係等の事前準備と定期点検 ・高齢者の入院が多い中、夜間・休日の応援体制の周知 ・防災、各班（庶務・防災・救護）の役割の徹底と教育 ・平成 28 年 4 月 1 日 消防法令が改定された。スプリンクラー・消火器具類・火災通報装置等について 抜本見直しがある為、法令に抵触しない様見直しが必要となる。膨大なコストを要する可能性もある。		

2015 年度報告（平成 27 年度）		安全衛生委員会	
人員構成			
委員長	古武 まゆみ	副委員長	岡田 幸子
委員構成	安全衛生管理者（2 名） 産業医（1 名） 看護部長 外来師長 検診室（1 名） 職員会会長		
活動内容 （成果）	・ 院内巡視の実施を行い、職場衛生管理に努めた。 ・ 職員健診の実施（夜勤者、放射線に係わる職員は年 2 回実施）。 ・ 院内感染防止のため職員にインフルエンザワクチン接種を実施した。 ・ メンタルヘルスチェックシステムによりメンタルヘルスチェックを実施した。H27 年 12 月より義務化となり、体制・規定を作成し、法律の示す体制とした。高ストレス者の面談を医師が行った。 ・ 院内喫煙がまだ認められるので、注意を喚起するためポスターを掲示した。 ・ 院内感染防止対策委員会と共同してインシュリン用針の変更等を行い針刺し事故の件数が減少した。		
課 題	・ 来年度は、院内産業医が 2 名体制となる。 ・ 安全衛生委員会の取り組みである「職員健診、職業感染防止対策、精神的サポートが適切に行われている」これを継続していく。 ・ 非常勤医師の健診結果が把握されているか確認する。 ・ 労基で定められた「化学物質のリスクアセスメント」作成に取り組む。		

2015 年度報告（平成 27 年度） 栄養管理委員会			
人員構成			
委員長	徳岡 貴美	副委員長	久村 良美
委員構成	医師（1 名） 管理栄養士（1 名） 調理師（1 名） 看護師（1 名） 言語聴覚士（1 名） 介護福祉士（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 行事食について（評価・見直し） ・ 嚥下食について（評価・見直し） ・ 適切な経腸栄養剤の選択・使用方法について検討（RTH 製剤への移行） ・ 栄養補助食品の用途別使用の提案（試食会・アンケートの実施） ・ 病棟毎の食事に対する細やかな対応の実施 ・ サナニュース掲載の献立の追加（糖尿病食・塩分制限食）		
課 題	・ システムトラブルの解消 ・ 嚥下食の質の向上 ・ N S T 加算の取得 ・ 栄養指導件数増加への対策検討 ・ 特別食加算の増加への対策検討 ・ 経腸栄養剤の経費検討		

2015 年度報告（平成 27 年度）			広報委員会	
人員構成				
委員長	大南 真人 2/1～ 安部 勉		副委員長	櫻井 卓哉
委員構成	企画渉外課（1 名） 事務次長（1 名） 礼拝堂（1 名） 看護助手（1 名） 在宅部門（1 名） リハビリテーション科（1 名）			
活動内容 （成果）	・ ホームページの充実 毎月の継続的な更新 スマホ版ホームページ作成・完成 ・ 毎月の病院広報誌 “ヴォーリズだより” の継続発刊 原稿依頼・編集・校正・発刊			
課 題	・ ホームページ管理体制の確立 情報発信への仕組み作り 担当と役割の明文化 ・ 広報誌の充実 ニーズに沿った情報の発信 ヴォーリズだより運用方法の検討（発刊方法等）			

2015 年度報告（平成 27 年度） 接遇委員会			
人員構成			
委員長	村松 淳子	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師・MSW（1 名） 事務（1 名） 薬局（1 名） 老健センター（3 名） 看護助手（1 名） 居宅（1 名） ケアハウス（1 名） 10 名		
活動内容 (成果)	職員の接遇に関する意識、質の向上に向けての取り組みを行う。 1、研修会の実施 ＊ヴォーリズの里全体の研修 研修実施日：11 月 9 日・11 月 10 日・11 月 19 日・11 月 20 日 時間、17：30～18：30 の 3 回、12：30～13：30 の 1 回実施し、病院 在宅職員 272 名、老健職員 40 名の合計 312 名の参加があった。 不参加者病院在宅 43 名、老健 36 名でした。 2、各職場での接遇の意識、質の向上 ①毎月の“接遇標語”の設置、意識付けを行う。 委員会メンバーはその確認をしていく。 ②マニュアルの見直し、作成 ③職員ポケットマニュアル検討、作成		
課 題	・接遇研修の組み立て - テーマ・講師・時期の検討 ・接遇標語の実施内容の検討 ・勉強会の実施、意識向上を行えるようにしていく。 ・里全体のメンバーなので、里としての接遇の在り方の検討を行う。 ・職員の接遇への意識向上に向けての取り組み		

2015 年度報告（平成 27 年度） 臨床検査適正化委員会

人員構成

委員長	鯉江 賢二	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（1 名） 医事課（1 名） 診療支援室（1 名） 臨床検査技師（2 名）		
活動内容 （成果）	- 精度管理 外部精度管理：平成 27 年度日本医師会精度管理事業の結果報告。 315 満点中、313 点評価。 滋賀県医師会・滋賀県臨床検査技師会精度管理事業の結果は、 生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門・血液部門すべて A 評価。 内部精度管理：検査センターメディックから問題なしの評価。 - その他連絡事項と業務改善について ★インフルエンザウイルス検査の検体採取は検査技師も実施可能になる。当院の技師は大学の研修を受講により可能。		
課 題	フクダ電子㈱のサーバー保守契約について 心電図・肺機能検査の記録はフクダ電子サーバーに保管管理され、電子カルテへ記録画像を送る流れである。サーバーの保守契約は高額費用の発生が予想される。その保守内容はサーバーの定期点検の実施とサーバーに何らかのトラブルが起こって記録が見られない場合、すぐに同機種 of サーバーも持って病院に駆けつけ、トラブルのサーバーからデータを写し、そして接続し過去の記録と現在の記録を電子カルテへ画像を送る対応を無償で実施。保守契約に入らなくてもトラブル時の修理は可能だが、至急の対応が無いのと修理費用が発生。 当委員会では、「バックアップできるのか」「過去の記録が見られないのは困る」「保守の内容をきちっと文章化したものが必要」「すぐに来てくれるのか」等の意見をまとめ、フクダ電子㈱から保守契約の内容（特にトラブル時の対応）書類と共に稟議書を作成し、部長会へ審議することになる。		

2015 年度報告（平成 27 年度） 医療安全管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	小西 智子
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 ME サービス担当（1 名） リスクマネジメント部会長（1 名） 医療安全推進者（2 名）		
活動内容 （成果）	1. 月 1 回の委員会活動 インシデント報告分析検討、インシデントの中でも重大であると思われるものは部会長が管理委員会に報告。 部会長から報告を受けたインシデントの分析検討・改善策の提案。 2. 年間教育計画に沿っての研修の企画・実行 3. 医療安全情報の院内配信 4. 一般病棟のアクシデントカンファレンスへの参加、事後対応のフィードバック 5. 看護部以外の部署でのインシデント、アクシデントレポート提出の励行。リスクマネジメント部会参加奨励。 6. アクシデントレポートの分析、改善策の検討、各部署へのサポート 7. 臨時医療安全委員会の招集 年 8 回招集。レベル 3b 以上全招集でき対策を立てた。 8. 委員会規定・医療安全管理指針のマニュアル見直し 9. 医療安全に関する職員教育。研修会開催 新採用対象・全職員対象 2 回開催 10. 医療安全管理委員会での R C A 分析施行		
課 題	・リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育 ・危険予知トレーニング（K Y T）を重ね、根本原因分析（R C A）を訓練する。 ・職員の意識向上に向けた研修、教育の実施 ・医療安全管理マニュアルの見直し継続 ・暴力対策マニュアルの見直し、フロー作成 ・医療事故発生時のフロー作成 ・医療安全管理加算取得にむけての働きかけ		

2015 年度報告（平成 27 年度） リスクマネジメント委員会			
人員構成			
委員長	加藤 和幸	副委員長	
委員構成	医局（2 名） 薬局（1 名） 栄養、給食科（1 名） 看護師（5 名） 放射線科（1 名） 医事課（1 名） 地域連携課（1 名） リハビリテーション科（1 名） 管理課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 毎月のインシデント報告と集計 H27 年度のインシデント集計、報告会開催（3 回） ・ 重要事例の検討と対策 ・ 医療安全委員会との連携 ・ リスクマネジメント研修会の開催 ・ セーフマスター導入後の運用継続		
課 題	・ インシデントレポートの提出の周知 レポートに関しては、セーフマスター導入後もリスクマネージャーが働きかけ、インシデントレポート提出を意識づけている。件数に関しては、温度差はあり引き続き働きかけを継続する。 ・ リスクマネージャーに対する教育 カンファレンスの持ち方、内容、分析の仕方、職員に対する指導などレベルアップが必要なため R C A 分析方法の導入検討。		

2015 年度報告（平成 27 年度）		教育委員会	
人員構成			
委員長	西山 洋平	副委員長	小松 知史
委員構成	看護部（2 名） 診療技術部（1 名） 事務部（2 名） 在宅部門（1 名）		
活動内容 （成果）	・他部署体験（係長級の職員、新入職者、途中採用者対象） 9 月 3 日、4 日、1 0 日、1 1 日、1 7 日、1 8 日に実施。 今年は全部署を見て回れるようにしました。 体験後に各部署の感想をレポート提出していただいた。 ・シニア体験 2 月 8 日実施 2 0 名参加 ・院内研修（off－JT） 毎月発行		
課 題	・他部署体験時受け入れ体制が整わない部署があり、方法・内容を検討。 今年から全部署を対象として、体験を行っていただいた。新入職員だけでなく、次世代の病院幹部候補に対して、ケアミックス型病院の機能を再認識していただけた。 次年度は対象者をどういう形で選出するかが課題。今年度は医師、薬剤師、病棟スタッフの不参加がありました。 ・シニア体験を継続し、職員全体の質の向上を図る。 ・院外研修（OFF－JT）の継続。		

2015 年度報告（平成 27 年度） 全人的ケア推進委員会			
人員構成			
委員長	増田 繁美	副委員長	細井 順
委員構成	医師（2 名） 看護師（2 名） 管理栄養士（1 名） 薬剤師（1 名） ケアワーカー（1 名） チャプレン（1 名）		
活動内容 （成果）	【定例委員会】 第 3 火曜日 14:00～14:30 （1 回/月開催） 【事例検討会】 ・年 4 回実施、8 部署の事例検討を行った。 ・他部署から違う視点での意見をもらい、患者の全人的苦痛について考える機会となる学習会であった。 ・事前にテーマを入れたポスター案内に変更し、参加の啓発に取り組んだが、参加者は担当部署と委員のみであった。 【がんセミナー】 テーマ「人生の苦楽をみつめる」 1/23 関西学院大学、岡本哲雄先生 「フランクフルから考える人生の意味」 —証しすること、つながり— 2/20 訪問看護ステーションふれんず、柴田恵子先生 「その人らしさに寄り添うとは・・・」 3/19 当院ホスピス医、奥野貴史先生 「がんと闘うためには」 1 回目はやや難しいという感想もあったが好評であった。2 回目・3 回目は身近なテーマであり、今後のテーマとしても最新の癌治療・ホスピスについてなどの希望があった。最終のグループディスカッションはグループによって内容がバラバラとあり、話し合いのテーマがあればよかったと反省にあった。 【追悼会】 春 5/16 : 11 組 14 名 秋 10/17 : 9 組 17 名 徐々に参加人数は減少している。		

	【リレーフォーライフ】 リレーフォーライフジャパン滋賀に病院をあげての取り組みを試みた。昨年はホスピスだけの参加であったが、今年度は院内各部より大勢の参加者をつのり、ウォークに参加した。参加してよかったというスタッフの声も多く、いのちを繋ぐリレーを通して院内にイベントを啓発できた。
課 題	【事例検討会】 ・各部署に委員がいないため、管理職が意識を高めてスタッフが意識付けできるような案内、声掛けが必要である。 ・病院全体の勉強会が多いため、教育委員とコラボした勉強会など、工夫が必要である。 【がんセミナー】 ・講師からのテーマの確認が遅くなり、案内がぎりぎりでもテーマも決まっていなかったため、テーマを絞って講演は早めに依頼する。 ・3月は左義長祭りの日を外し、スムーズな運営であった。 ・対話を中心に死生観についての講演依頼であったが、3回のセミナーを通して話し合うには難しい内容であり、グループによってバラバラになってしまったため、話し合いのテーマを決めた方がよかったと思われる。 【追悼会】 ・年々参加者が減少している。病院としての追悼会の目的・意義を周知していく必要がある。 【全体を通して】 委員が少人数になり、医師の参加が難しく、委員会の運営がぎりぎりの状況であった。追悼会・リレーフォーライフの参加を委員会で運営していくことを見直し、全体の意識を高めるために病院の取り組みとしてすすめる方がよい。

2015 年度報告（平成 27 年度）		褥瘡対策委員会	
人員構成			
委員長	北野 晴久	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（4 名） 管理栄養士（1 名） 薬剤師（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 月 1 回の定例委員会 ・ 委員会メンバーでのグループ回診を月 2 回実施 ・ 褥瘡診療計画書を集計して医事課に提供 ・ 褥瘡に対する予防・治療の最先端の知識の周知		
課 題	入院患者に高齢者が多く、褥瘡が発生しやすい環境である。入院時に作成する「褥瘡に関する診療計画書」には、褥瘡の評価として DESIGN も用いているが、2008 年に DESIGN-R に改訂されたにも関わらず、変更されていない。また、開放湿潤療法として指導を行われてきたラップ療法は、Ⅲ度、Ⅳ度の褥瘡に対しては、有位に悪化させることが証明されているにも関わらず、標準治療として周知され、認識されている。 エアマットについても、褥瘡発生のメカニズムを理解すれば、充足していないにも関わらず、昨年度の報告では、褥瘡の治療に関する知識は最先端からかなり遅れをとっていることを病院全体が認識していない。 まずは、褥瘡に関して、正しい知識を共有する必要がある。“適切な”薬剤使用や褥瘡の湿潤環境を把握して、治療法を選択しないと、褥瘡は治らない。 採用されている薬剤の整理や、体位の指導、背抜き徹底等を行う必要があり、16 年度から、理学療法士を新たに委員に加えることや、体圧測定器の測定による褥瘡予防法の再構築、学会等に参加して、最新の褥瘡の予防法・治療法の知識の習得をすすめる必要がある。		

2015 年度報告（平成 27 年度） ボランティア委員会			
人員構成			
委員長	堀井 由高	副委員長	古武 まゆみ
委員構成	看護師（1 名） 看護助手（1 名） 在宅部（1 名） 医事課（1 名） 管理課（1 名） 老健センター（2 名） 委員長・副委員長を含め、9 名体制		
活動内容 （成果）	・ 第 39 期、第 40 期ボランティア募集 募集への作業確認と役割分担 オリエンテーションの実施 ・ 6 月 6 日（土）ボランティアの集い 実施 今回は、新しい試みとして、災害時の準備・行動等について、グループ討議を行った。 ・ 10 月 25 日（日）すこやかフェスタのカレー販売の手伝い ・ 11 月 29 日（日）クリスマスリース作り ・ 12 月 12 日（土）クリスマス会 各種サポート ・ ボランティアの健康管理と活動支援 健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施 ボランティア間、病院、老健との交流会 活動内容、活動時間などの管理 ・ 活動の支援と協力体制 日本病院ボランティア総会等での参加時の予算組み		
課 題	・ ボランティアの募集 秋期募集時、申込なし。 高齢化と人員減少を食い止めるのが難しい。		

2015 年度報告（平成 27 年度） 院内感染防止対策委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	奥野 貴史
委員 構成	院内感染防止対策委員：院長 感染管理者（医師） 看護部長 事務長 薬局長 検査技師長 事務部長 院内感染防止対策チーム：病棟（4 名）・外来看護師 リハビリ科 栄養科 放射線科 地域連携課 医事課 管理課 薬局 代表各 1 名		
活動 内容 (成果)	・ 滋賀医大附属病院と院内感染防止合同カンファレンスに 4 回参加し、当院の状況報告と意見交換を行った。 ・ ICT チームの院内ラウンドを継続し、指摘事項の改善を求めた。 ・ 当院のアンチバイオグラムを作成し、6 か月毎に更新する。 ・ 滋賀県感染症情報センター週報を毎週院内に配信し、情報を提供した。 ・ 毎月定例委員会では臨床検査科より「感染レポート」報告により耐性菌発生状況の報告。JANIS 報告。薬局から院内抗生物質使用量の報告。月次病棟別アルコール手指消毒薬の消費数の報告。 ・ 来院者、家族向けに流行している感染症注意喚起ポスターを掲示した。 ・ 院内感染防止「手洗い実習」を各部署で実施、「注目される感染症 インフルエンザウィルス、ノロ感染症対策」研修会を実施した。 ・ 発熱患者に血液培養検体採取を推進した。 ・ 外来、各病棟に自動水栓を導入した。 ・ インシュリン用セーフティ針を導入した。 ・ H27 年度在職看護部職員に手指消毒剤ポシエットを導入し、アンケートを実施した。 ・ 経管栄養剤をディスポ化し、院内感染防止、看護師の業務改善をした。 ・ 各病室に感染防御具ホルダーを設置し、使用を促した。 ・ H27 年度院内感染対策講習会（奈良）、その他の院内感染防止対策研修会に参加した。 ・ 「病院感染防止対策マニュアル」の改訂を実施した。 ・ 滋賀県感染制御ネットワークに参画し、滋賀県下の耐性菌発生状況を共有した。 ・ 便座クリーナーを各トイレに設置した。		
課 題	・ オムツ交換時の感染防止策の策定と周知		

2015 年度報告（平成 27 年度） 診療情報管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	加賀爪 優子
委員構成	医 局（1 名） 事務部（1 名） 看護部（1 名） 診療情報管理士（1 名） 技術部（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 診療記録監査について 診療情報管理士の増員で日常業務での診療記録精査を行う。 → 講評をつけて 1～2 ケ月単位で報告を医師に行う。 同僚評価にて診療記録監査を年に 1 回実施を行う。 → 記載内容を統計化することにより改善を図った。 ・ 電子カルテ内の運用変更について 同意書の発行状況を簡潔に把握できるように行った。 ・ DPC データ提出加算について 運用変更を行った結果、短期間でのデータ提出が行えるようになった。		
課 題	・ 院内カルテ監査 2016 年度はカルテ監査を年 2 回実施したいと考えます。 ・ 電子カルテ 診療記録の内容充実を図っていきたい。 ・ DPC（データ提出加算） 病院内連携を図っていきたい。		

2015 年度報告（平成 27 年度） 病院機能評価委員会			
人員構成			
委員長	中野 さつき	副委員長	古武 まゆみ
委員構成	院長補佐、事務長、看護部長、医師（1 名）、看護部（2 名） 診療技術部（2 名）、事務部（3 名）		
活動内容 （成果）	・平成 25 年の更新時の指摘事項を関係部署と協同して改善に取り組む。 ・各部署のインジケーターの継続的取り組み ・禁煙教育の一環として全職員対象の禁煙アンケート調査 禁煙外来の勧めと禁煙教育（外部講師迎えての研修会）を開催した。 ・診療情報管理機能を適切に行うためのマニュアル、規定類の 一元化の検討 ・院内緊急コードの設定「コードブルー」「コードホワイト」全職員対象 の訓練 ・平成 27 年 12 月「期中の確認」内容の提出を行う。		
課 題	・平成 27 年「期中の確認」内容の取り組み ・平成 30 年サード G : V o r , 1, 1 受審に向けての準備 (緩和ケアの付加審査継続受審、回復期リハビリテーション付加審査) ・推進リーダーの育成と委員会メンバーのマネージメント能力向上 ・禁煙教育の継続的取り組み		

2015 年度報告（平成 27 年度） 個人情報保護対策委員会			
人員構成			
委員長	加賀爪 優子	副委員長	川嶋 勇次
委員構成	医師（1 名）、事務長、看護部長、事務次長、在宅部（1 名）、放射線科（1 名）、医事課（1 名）、地域連携課（1 名）、診療情報管理室（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 個人情報保護に関する研修会 「情報モラル 人権に配慮した個人情報の取り扱い」 DVD 鑑賞 平成 27 年 10 月 14 日～16 日 実施 欠席の場合は、DVD を渡し自宅での視聴を行い配布されたアンケートを提出してもらう。 ・ 病院が取扱う個人情報保護のための基本規定の見直し 第三者への提供・取得する方法・安全管理措置 など追加、削除を行う。 ・ 各部署における個人情報保護規程およびマニュアル見直し 所定の様式で作成依頼をかけ、統一感を図った。 ・ 個人情報保護規程・マニュアル集 ファイリング全部署配布 診療録等診療情報開示関連資料を添付 全部署統一したファイリングの配布を行った。		
課 題	・ I T 情報管理委員会と個人情報保護対策委員会との連携の構築継続 ・ 個人情報保護に関する継続した教育と周知 ・ マイナンバー規程、公益通報者保護法による内部通報制度を個人情報保護規程に追加する。		

2015 年度報告（平成 27 年度） クリニカルパス委員会			
人員構成			
委員長	新庄 安宏	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（1 名） 薬剤師（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 7 月 運用規定見直し。→変更なし ・ 10 月 ジオンパス内容を修正，2 泊 3 日から 1 泊 2 日へ。 リハビリ，NST での長期パス使用状況を確認，運用後の追加変更なしのまま運用継続中。新規パスを検討。		
課 題	・ 誤嚥性肺炎等のパスを検討してみるも定型的な運用は困難ということ とで利用が進まなかった。 ・ 院長から外科系パスの追加変更の要望。 ・ 化学療法も新規導入例が少ないため新たなパスは検討のみで作成せ ず。		

2015 年度報告（平成 27 年度） ワークライフバランス委員会			
人員構成			
委員長	神 千草子	副委員長	櫻井 卓哉
委員構成	医師（1 名）看護師（8 名）事務職（2 名）調理師（1 名）		
活動内容 (成果)	＊日本看護協会推進事業 WLB 推進事業への参加 ・6/1～6/22 インターネットでのインデックス調査実施(看護師対象) ・9 月 ワークショップへ参加 →インデックス調査（回収率 85%）の分析、今後の取り組み計画の立案 3 年目のアクションプランを立案 ①WLB 支援に関する取り組み 1) 生活支援（メディカルフィットネス・体幹トレーニングの参加推進は思うように進まなかった。） メンタルヘルス制度の周知、継続 2) WLB 新聞の発行（2 回発行） ②WLB 基盤制度に関する取り組み 昨年実施した時間外勤務に関する実態調査結果を各部署へ報告。 結果を基に部署内で評価し問題点を明確化、さらに改善が必要な場合は具体的な改善策を委員会へ報告してもらった。 ③個人 WLB 評価に関する取り組み 1) 経営計画の周知→院長・事務長各部署へのヒヤリング 2) 賃金テーブルの不明瞭な項目を整理して明確化を依頼した。 3) キャリア支援、人事制度の見直し終了 評価者向け研修を管理職研修に取り入れてもらった。		

	④3年目の新たな取り組み 20歳代～30歳代前半の職員の将来への不安の割合が大きいことから対象者を絞ってヒヤリングを行うことにした。アドバイスから外部講師を招いて行った。 ＊2月22日 23日『おしゃべりバー』実施。 初めての試みとして、餅田先生を招いて4グループに分かれて思いや考えを出しあえる場を提供した。アンケート回収。 ・委員会毎月1回定例化した。 ・1月21日フォローアップワークショップへ参加、3年間の取り組み発表 ・毎月1回滋賀県看護協会へ取り組み状況報告
課 題	・院内全職員対象アンケート調査を実施し課題を抽出し解決に向けた取り組みを行う。 ・WLBの理解を深めてもらう取り組みとして、院内掲示（WLB新聞発行） ・病院執行部との情報共有の場を継続して作る。 ・3年目の課題であった若年層の不安等に関する支援

2015 年度報告（平成 27 年度） IT 情報管理委員会			
人員構成			
委員長	島川 義昭	副委員長	
委員構成	システム室（1 名） 医師（1 名） 看護部（1 名） 企画渉外課（1 名） 管理課（1 名） 放射線科（1 名） 薬局（1 名） 医事課（2 名） 栄養科（1 名） リハビリテーション科（1 名） 診療情報管理室（1 名） 診療支援室（1 名） 外部（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 情報セキュリティの向上策について検討を実施 ・ 毎月のシステム室対応状況報告 ・ システムトラブルに対する報告（原因、対策、再発防止策） ・ 各部署に部門システムについてアンケート調査を実施した。		
課 題	・ コアリーダーの育成 ・ 電子カルテシステムの次期更新に向けての課題を明確にし、次期更新の方針、重点項目、スケジュールを明確化する。 ・ 職員の情報セキュリティに対する意識向上（教育）		



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院 年報

平成27年度

発行 平成 28 年 10 月
発行者 公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
管理者 三ッ浪 健一
院長 周防 正史

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町 492

TEL (0748) 32-5211(代)

FAX (0748) 32-2152

URL <http://www.vories.or.jp>